

## 県立高等学校再編整備計画(案)

### 県民パブリックコメント意見一覧

#### 【応募数95名】

- 1 計画案全般に関する意見(26名) ..... P 1
- 2 奥越地区の再編整備等に関する意見(7名) ..... P18
- 3 水産教育に関する意見(59名) ..... P22
- 4 定時制・通信制課程の見直しに関する意見(3名) ..... P58

#### ※注

意見の趣旨ごとに上記4つに分類し、受付順に掲載した。したがって、「パブリックコメント意見募集の結果」の番号とは合わない。

## 1 計画案全般に関する意見

No.1	<p>高校入試の志願者状況を見ますと普通科の倍率が職業系を大きく上回っています。また多くの職業系の高校では定員割れを起こしているコースがあります。つまり、大学進学希望者が多いということですね。</p> <p>また、職業系の高校へ行っても推薦で大学進学する生徒がかなり増えてきているのが現状です。この事を考え合わせますと、普通科の定員を増やし職業系の学科を状況を見ながら定員減または廃科していくのが現実に即しているのではないのでしょうか。</p>
No.2	<p>今、受験シーズン真っ最中ですが、どれだけの生徒や学生が希望する将来につながった受験をしているのでしょうか。</p> <p>私達の頃は、漠然と普通科にいき、漠然と大学に進学しました。それでも何かしら職にはつきました。でも、世間の状況を見ると、高校のときから職業が考えられることが重要と思います。今、総合産業高校と拠点校に再編しようとしています。中学生にとって、将来の目標をもって進学する意味ではよい試みだと思います。</p> <p>高校側も、具体的にどういうことを学び、どういう資格をもち、どういう道に進めるのか、ということを確認し、生徒と先生が同時に目的意識をもって、将来に望んでほしいです。</p>
No.3	<p>福井県全体の子供たちのことを最優先に考えて、子供たちが将来の夢や希望を実現できるような高校教育の充実を期待します。</p>
No.4	<p>先日、テレビの報道で知りました。伝統ある学校がなくなることは寂しいですが、少子化の現状では仕方ない選択かと感じました。単純に複数の学校をまとめるだけでなく、他県の良い例なども参考に、より生徒が充実した生活が送れる学校作りに努めてください。</p>
No.5	<p>統廃合は仕方ないと思いますが、生徒の目線で進めて欲しいと思います。</p> <p>他県の状況も見ながらより魅力ある学校にして欲しいと思います。</p> <p>進路目標や習熟の程度に応じた確かな学力を培うための指導方法の工夫・改善、また、体験的な学習や問題解決的な学習の推進も重要だと思います。</p>
No.6	<p>近年、生徒数が減少しており本県においても高等学校の再編は、避けて通れない問題だと思います。当面は奥越地域を中心に学校再編が進むようですが、当地区の生徒や保護者にとって納得のいくような計画をお願いします。景気の悪化や産業構造の変化に伴い、学校で学ぶ内容も変化しなければならないと思います。そういう意味で、社会のニーズに応じた「総合産業高校」の構想には期待が持てます。</p> <p>一方、予算等の問題があると思いますが、障害児教育にも力を入れていただき、奥越地域に特別支援学校の設置の検討を是非お願いします。</p>

No.7	<p>再編整備計画拝見しました。これから県立学校の再編を進めるに際しては、単に学校の生徒数や学級数などの規模だけで再編を考えないようにして欲しいと思います。ひとりひとりに目が行き届いていねいな教育ができる小規模学校には小規模ならではの良さがあるのではないかと思います。</p>
No.8	<p>時代は大きく変化し、世界のグローバル化・環境破壊・地球資源・エネルギー問題・持続可能な繁栄・人口の少子高齢化など人類が当面する課題は山積している。</p> <p>わが国もまたこの中であって、将来を担う青少年教育、なかんずく高校生を如何に育てるかは、福井県政にとっても重要課題であることは言うまでもない。特に福井県でも高校生がピーク時より4割近く減少しており、高校の適正規模から逸脱している学校も珍しくないという。高校生にとってどのような教育環境が望ましく、教育効果が高められるのか、価値判断が大切なのである。</p> <p>単に経費・過去の経緯・住民感情などにかかわらず、教育百年の見地からの判断が必要と思われる。</p> <p>このような見地から計画骨子を見ると、現下の諸情勢からみて、おおむね妥当な線ではないかと思われる。</p> <p>適正な学校規模・配置、特に一次・二次・三次産業から情報化社会への移行に対して総合産業高校の設置と新しい学科の設置は必須の課題である。職業系は入学に際して生徒が多様な選択を出来るようにすべきであると思う。</p> <p>又、近年の社会情勢を考えると、社会人としての規範意識をしっかりと身に付けさせる教育が必要である。「繁栄」と引き換えに人間が失った「負の遺産」を克服する教育が、緊急の施策としても望まれる。</p> <p>要は県民各界各層の理解を得て、速やかに年次を追ってスピード感ある改革を実施されることが望まれる。</p> <p>県民も高校生のおかれている現状を省察して、万全でなくてもよりBetterな選択をされるべきではないか。改革のKeyは将来ある高校生にどう教育するかにかかっていると思う。主体は高校生であるが、それを担保するものは親と社会（教育委員会）でなければならない。</p> <p>経済的には百年に一回という激動の時代、教育関係者は勇気と情熱を持って二十一世紀を担う人材の養成の改革に挺身されることを望みます。</p>
No.9	<p>県教育委員会が、高校再編について、丁寧な説明をして下さっていました。</p> <p>生徒の能力・適正・興味・関心・進路希望等が多様化していることを踏まえ、これまでの高等学校教育の仕組みの大幅な見直し、さまざまな制度の有効活用を進める必要があると痛感しています。</p> <p>ぜひ、今回の案を実現し、多様な個性・能力を持った生徒に対応できるような教育環境を整備していただきたいです。</p> <p>県が、積極的に新しいものを取り入れ、福井県の学力向上に向けて努力されていることに、大変感銘を受けました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。</p>

No.10	<p>このような計画が、私の手元に届いたのが、全くの偶然だったことをお伝えしておきます。県立高等学校再編整備計画(案)のはじめの一番最後に、</p> <p>「保護者の方々や市町教育委員会、学校関係者、さらには広く県民の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。」</p> <p>とありますが、このような、計画は、中学生をもつ保護者には、伝えないことになっているのでしょうか。また、どのような広報をしておられたのでしょうか。保護者(中学生の)には、どのような広報をされていたのでしょうか。また、その反応は、いかがなものだったのでしょうか。アンケートやこのようなコメントをとる、活動はされましたか。</p> <p>「近年、少子・高齢化の進展や産業構造・就業構造の急激な変化が進む中、高校教育においても、社会からの期待や生徒の多様化に対応するため、新しい在り方が求められています。」</p> <p>とありますが、新しい在り方とは、どのような方面から、求められているのでしょうか。誰が、どのように、いつ、求めているのか主語を明確にしてほしいです。生徒たち自身・親・地方・教師・教育関係者など、具体的なデータが欲しいです。</p> <p>「また、現在、多くの都道府県において、高校の再編整備計画の策定ないしは基本的方向の公表がなされており、」</p> <p>他の県や自治体に合わせるのが、教育ですか。福井県の独自の考えではないのですか。</p> <p>「計画の具体化が進められています。生徒数の減少が進む中、本県においても、高校で学ぶ生徒たちにとって最良の教育環境を提供するため、」</p> <p>福井県が目指す最良の教育環境が、今回の編成整備ですね。学ぶ生徒たちの意見(データ)を公表していただけますか。</p> <p>各職業系専門学科の在り方</p> <p>このコメントは、ものすごく幼稚なものだと思いますが、農業科・工業科・商業科・水産科・家庭科・福祉科があって、林業科は福井県には、ないのですか。今後もないのですか。</p> <p>「水産系専門高校については、志願者の減少に伴い、単独の専門高校としては成り立ちにくくなっているため、近隣の職業系専門学科を持つ高校との統合による総合産業高校への再編を検討する。」</p> <p>「本県の水産業を担う人材の育成のため、新しい栽培漁業や食品加工、海洋保全に関する学習のほか、食育など本県の特徴を生かした教育体制を整備する。」</p> <p>水産系の専門高校もなくなるのですね。まして、林業なんて問題外ですね。県の教育行政の基本的な考え方ですね。</p> <p>全くの素人の考え方ですが、これからの時代は、専門的な経験が問われる時代になりつつあります。総合大学よりも、より専門的な技術が学べ、社会に出ても、その分野で、即戦力になる人材を求める時代になりつつあると思います。</p> <p>もちろん、もちろん県には、独自の時代予想の卓越した分析があると思います。その研究結果により、今回の時代のニーズにあった人材教育の環境づくりをしておられると思います。では、県では、どのような時代分析をしておられるのでしょうか。できれば、お教えてください。</p> <p>これも、あくまで、人の噂や新聞紙上の情報に過ぎないことですが、また素人考えですが、</p>
-------	--

	<p>ここ2・3年、小浜の水産高校は、いろいろな研究成果を発表し全国的に見ても、卓越した活動をしていると思います。また、その支援に地元の住民やボランティア団体が応援したら、熱心な先生の指導もあるとききます。</p> <p>このような校風をなくす方向は全く今回の計画(すくなくとも、私にはそうおもわれます)には、多くの疑問と、行政の判断能力に疑問を持ちます。いかがなものでしょうか。</p>
--	--

No.11	<p>世界同時不況の影響やその後のことを考えると、これからの日本は製造業オンリーでは生きていけない。産業構造も大きく変わると思う。</p> <p>県立高等学校再編整備計画(案)の中には、新しい学科の設置も触れられており好感が持てたが、どうしてもものづくりの域から離れていない。たとえば、コンピュータやアニメーション、コンテンツビジネスなどを高校時代から学べる学科や観光やホテルのことを学べるカリキュラムを盛り込んではどうか。</p>
-------	--

No.12	<p>毎回感ずることなのですが、行きたい学校を選ぶのではなく、学力から行ける学校を選ぶ傾向が強いということです。したがって、高校へ進学する人生の意味さえ理解せずに進学し、高校での違和感を感じながら3年間を過ごす生徒が多いことに驚いています。</p> <p>したがって、高校再編を契機に大改革を断行すべきだと考えます。整備計画でも出されていますが、総合産業高校の設立は必要なことだと考えます。</p> <p>また、福井県の中等教育のレベルは全国的に見て、決して高くはありませんので、レベルアップは喫緊の課題だと考えます。</p> <p>したがって、藤島・武生・若狭・大野の各高校を後期中等教育のモデル校とし、募集定員も100名前後に制限することを提案いたします。また、他の高校(新設される総合産業高校も含め)につきましてもレベルの格差をつけることなく、どの高校へ進学する場合においても一定のレベル(たとえば500点満点中350点以上とか)を確保することが賢明かと存じます。</p> <p>今回の高校再編を機に、高等教育につながる前期中等教育、後期中等教育の大改革をぜひ断行していただきたいと思います。</p>
-------	---

No.13	<p>金津高校はご存じの通り普通科と商業科が併設されている学校でどちらの学科もすばらしい成果を上げてきました。これは、お互いの学科が切磋琢磨してきたからに他ありません。</p> <p>ところが、現在計画されている総合産業高校なるものは、いまの現状を把握してない全く機械的に帳尻を合わせたようにしか見えません。特に坂井地区の場合。もう少し、いま、学校がどういう状況かをしっかりと把握してほしいと思います。もしそうされているのならきちんとした説明をしていただきたいと思います。</p> <p>今の金津高校は地域の思い、県の思い、そして生徒・教職員が必死でがんばってきた結果、坂井地区でもトップクラスの学校になってきているのです。金津高校から商業科を離すのはよくありません。先が見えています。総合産業高校に組み入れられた商業科も先が見えています。</p> <p>それから高問協の答申の中に書かれている、併設校の専門学科は専門性が薄れるというのは間違いです。検定の取得状況を見てください。単独商業高校とひけをとらないばかりか、逆にいい成績を上げていると思います。その他の商業活動も同様です。</p> <p>以上、もっと学校や地域に足を運んだ上で結論を出してください。よろしくお願いします。</p>
-------	--

No.14	<p>職業系高校は、普通高校と比べ、なんだか劣っているような印象を受けています。しかし、社会に出てから間に合うのは、職業系高校の卒業生で、地元の会社に就職してくれます。普通高校に通う頭のいい子どもは、県外に入ってしまうことに比べれば、その違いは明らかです。私は、職業系高校の生徒たちにもっとスポットを当てるような場や活動を増やしてほしいと思いますので、新しい、計画の中には、そういうことも触れてほしいと思います。末筆ですが、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
-------	--

No.15	<p>諸般の事情や問題点解決のために全国的な流れに乗って、県立高等学校再編整備を実施することはやむをえないと理解します。しかし、これだけ大掛かりな再編を実施するのですから、「小人数学級化」「教育相談体制の充実」「教育内容の充実」等々という目標に対して当然のことながら、'教員の資質向上'がより重要になるのではないかと思います。'教育は人なり'という観点から具体的施策が記述されていないのが残念です。</p> <p>全体を通して、建築物を建設するような文脈でハード面は設計されているが、ソフト面について具体的記述がなく、父兄・生徒に負担を求めているような印象を受けました。</p> <p>概要だからしかたがないのかも知れませんが、実施前に保護者の方々等と十分詳細説明を行う必要があると思います。</p>
-------	--

No.16	<p>福井県は小中学校の学力が全国で1・2位と伺っていますが、現行の福井の高校教育ではそのレベルが維持できていないように感じます。全国に誇る「福井の義務教育」で培われた学力を、更に大きく伸ばすような「福井の高校教育」の礎となる再編となりますよう期待しています。</p> <p>今回の第1次実施計画では、奥越地区の再編および定時制・通信制課程の見直しを挙げられています。奥越地区の再編では、大野・勝山両市にまたがる広域的な再編となるため、通学の利便性確保が大きな課題となるように思います。スクールバスのみならず、公共交通機関との連携が必要であろうと考えます。また、全県1区となっていることを鑑みますと、県下全域の交通ネットワークの整備があつてこそ、再編の目的が果たせるのではないのでしょうか。</p> <p>定時制・通信制課程の見直しについては、単位制を導入される、とのことですが、生徒に時間的制約があることを考えますと、大変良い制度であると思います。ただ、生徒は未成年が主となるのではないかと思いますので、単位選択にあたっては学校側の丁寧な対応が求められてくると思います。数年前に普通科高校の単位履修問題がありました。単位制は、将来的に普通科高校にも適用されてくるのではないかと感じております。生徒や親が必要と感ぜられる単位履修プログラムの構築を望みます。</p> <p>なお、再編によって、今後高校生となる子供たちの選択の幅が狭くなることのないよう、強く望みます。今回の再編整備を契機として、福井の高校教育が全国の見本となるような特色ある制度となり、近隣県から高校は越境してでも福井に行きたい！と思われる高校ばかりになりますことを期待します。</p>
-------	--

No.17	<p>1 職業高校を拠点校と総合産業高校に区分していくことについて</p> <p>(1) 職業教育の現状把握はどうだったのか</p> <p>現在の職業教育について、「社会のニーズや学習内容と進路・職務内容にミスマッチがある」「学ぶ意欲があり学びたい分野がはっきりしている生徒と、高校において自分の能力・適性を見いだそうとする生徒の学習ニーズへの対応」という点から出発した。この出発点からは、高問協答申や再編計画の「拠点校と総合産業高校」という考え方に帰着していく。しかし、この現状把握と解決の方向が、本県の職業教育の中心課題なのか疑問だ。</p> <p>(2) 高校教育の目的は</p> <p>高校教育の目的は「人格の完成をめざし(教育基本法)」、「普通教育と専門教育を通し、中学校の成果をさらに発展させ、国家および社会の形成者としての資質を養う(学校教育法)」とされている。(学校教育法の改正により、表現は異なり3項目になったが)平たく言えば、普通教育と職業教育を通して人間的成長をはかることにつきる。学習内容と進路・職務内容のマッチングはあくまで一つの側面ではないのか。</p> <p>高校で学ぶ数学が社会に出てから必要になることはほとんどない。では、無意味なのだろうか。高校時代に、数学を通して人間の幅を広げるためだと思っている。</p>
-------	--

(3) 職業高校で勤労観や進路意識を高めることは大切なこと

就職して3年以内の離職率が高いことが何年も前から指摘されている。自分がやりたいことと就職先とのミスマッチがないように、丁寧な進路指導をしていくことは重要なことだ。学習したことが生かせるように進路指導していくことも同様だ。しかし、こうしたことと、職業高校の統廃合は別の問題ではないか。

(4) 職業教育の差別化につながらないのか

職業高校を再編する基本的考え方は「拠点校と総合産業高校」である。この考え方について、メリットとデメリットを含め突っ込んだ議論がされたのだろうか。再編計画の検討の中でどんな議論になったかは全く分からない。

職業教育の差別化につながらないのだろうか。学ぶ意欲や目的意識によって分けるという点、単独校の拠点校と様々な学科が併設される総合産業高校という点から見て、その危惧がぬぐえない。

(5) 総合産業高校は専門性が保障されるのか。

再編計画では、総合産業高校では「総合選択制を導入します」となっている。現在の職業高校においても、学科内でコース制に分かれ異なる科目を選択しているし、進学と就職用の選択科目も設けている。違いは、総合産業高校の総合選択制では「他学科の科目」が含まれていることだ。従来との違いを強調すればするほど、専門性が保障されるのか疑問が残る。

(6) 拠点校への遠距離通学を強いることにならないのか

農業は1校、工業・商業は最低1校は拠点校にするという。拠点校で学ぶために遠距離通学を強いられた生徒がでてくる。拠点校はどうしても福井市中心になると予想するが、教育の機会均等から見てどうなのか。また、職業高校を拠点校と総合産業高校で序列化を進めることにならないのか。

(7) 施設設備など教育環境は整備されるのか

卓越の職業学科は、総合産業高校に併設される。再編計画では、「水産学科は総合産業高校に」「農業は1校を拠点校に」としている。若狭地区に現在ある職業科は、水産・工業・農業・商業だ。施設設備等も含めて総合産業高校に併合できるのだろうか。それとも、水産の専門教科は(水産高校の)小浜キャンパスで、農業の専門教科は(若狭東高校の)東小浜キャンパスで学ぶようにするというのだろうか。坂井・福井地区の農業や工業においても同様だ。学ぶ場所が曜日によって違ったり、通学手段・通学費用の問題など、教育環境が低下することはないのだろうか。

2 定時制通信制教育の在り方について

(1) 県内すべての定時制を同一のものにする必要があるのか

高問協答申と再編計画の内容は、①すべての学校を「単位制・二学期制」に、②夜間定時制を可能な限り昼間制にして配置を見直す、という方向だ。

「単位制」ではクラス集団の教育活動が難しいという問題があり、現在単位制の学校も学年制を取り入れる形で工夫しながら教育活動をすすめている。単位制で「自分のペースで学べるように」と強調されたが、言葉を換えれば「自己責任で」ということになる。なぜ、すべての学校を「単位制・二学期制」にしなければならないのか。

(2) 小規模な夜間定時制で単位制は可能なのか

現在の夜間定時制はいずれも小規模校だ。教科の教員が一人しかいない小規模校で、生徒が科目を自由に選択できるという単位制は可能なのか。生徒は単位制だから留年はない。3年で卒業できずに4年次にどんどんたまることにならないのか。一方、3年間で卒業することが前提で教職員が配置される。教育条件の悪化にはならないのだろうか。

(3) 経済的自由から定時制に入学する生徒は多い

経済的な理由で進学できず、日中は働きながら夜学校に通うというのがそもそもの定時制の姿だった。憲法でいう教育の機会均等を保障する制度だった。

社会発展の中でそうした生徒は減ってきた。しかし、経済的理由から定時制に入学する生徒は多い。日中に正規社員として働くことができない社会情勢から、勤務はアルバイトしかない。

こうした状況だが、福井県においても、教育の機会均等を保障する制度として夜間定時制も一定必要なのではないのか。

(4) 定時制教育の中でも生徒が成長していている

実際に定時制を担任している教員から、「しったり、なだめたり、生徒を引っ張って引っ張っていても、途中でやめる生徒も出てしまう。その中で、3年4年になった生徒を見ると入学時から大きく成長している」と聞く。職業教育のところでも書いたが、こうした姿が本来の教育の姿ではないのか。

定時制教育のあり方は、こうした教育をさらに充実させるにはどうすればよいのか考えることではないか。一律・機械的な制度の押しつけであってはならない。

### 3 適正規模・配置について

(1) なぜ普通科も含めて「30人学級」を展望しないのか

全県の全日制高校の平均学級規模が36人程度になっている。これを根拠に、職業科は30人は確保するとしつつも、適正な学級規模を36人とした。なぜ、普通科も含めて「30人学級」を展望しないのか。

(2) 定数法の矛盾解消を

現在の法律(定数法)では、3年分の募集定員を基に教職員の数が決められる。従って、国の基準は40人学級なので、福井県独自に少人数学級をすすめると、学級数は減らないのに教員が減るという矛盾が生じている。この点については、どの学校現場からも悲鳴のような切実な声が出されている。国の責任による30人学級を求めたり、県独自の措置を充実させるなど、矛盾解消にふれていないのはなぜなのか。

(3) 1学年3学級の小規模校は教育力に劣るのか

再編計画では、現在1学年3学級の学校があるところから再編をすすめるとしている。高問協では、教育的効果を上げるには一定規模が必要だという前提で議論された。新たな学校をつくる場合には、この考えは十分に理解できる。しかし、逆に、小規模校は統廃合するという基準にして良いのだろうか。

定員が集まっていないことを理由に挙げるかもしれないが、学校が統廃合されると言われる中で希望者が減るのは当然であり、その小規模校に責任があるなどとは言えない。

(4) 選択科目数の幅は学校規模とは無関係

高問協では、小規模校のデメリットとして、「科目選択数の数」と「部活動の数」があげられた。しかし、選択科目数の幅は学校規模によるものだろうか。カリキュラム(教育課程)の問題であり、大規模校の普通科と小規模校の職業高校の科目選択を比較しても全く意味がない。

部活動の選択幅は広いに越したことはない。しかし、統廃合の理由にはならないのではないのか。

4 生徒減少と高校の統廃合について

(1) 統廃合の理由付けから離れて

職業高校の「拠点校と総合産業高校」「学校の適正規模」は、1学年3学級の小規模校を統廃合する理由付けに感じてならない。その理由付けによって、本県の職業教育が逆にゆがまないのか危惧する。

(2) 生徒減を正面から見ながら、小規模校も可能な限り存続させる

生徒数がどんなに減っても、あるいは1学年が2学級以下になっても、現在の高校をすべて存続させようとは県民の誰もが思わないだろう。しかし、今回の再編計画は、小規模校で教育的効果が薄い、生徒が減るから何年後に募集停止で総合産業高校に、という方針が上から押しつけられている。

そうではなく、生徒減少の中で何年までは少人数学級をすすめながら現在の体制が存続できます、それまでは生徒の教育活動に責任を持ってあたってください、その後のことを時間をかけて、現場や保護者、地域の意見を十分聞いて考えていきましょう、という姿勢であるべきではないか。

(3) 普通教育と職業教育がともに地域で学べるように

将来の適正配置を考える上で、現在行われている教育をどう保障していくのか、充実するためにどう変えていくのか、普通教育と職業教育がともに地域で学べるという観点から考えることが必要だ。

(4) 奥越地区の再編に関して

2011年に総合産業高校の開校という予定だが、生徒数の推移を見れば数年は余裕があるのではないか。その間に、勝山南と大野東を総合産業高校にするのがよいのか、勝山と大

野それぞれで普通教育と職業教育を保障していくのか(足りないところは通学を含め条件整備をしていく)、さらには大野高校の定時制を含めて高校教育のあり方を考えるなど、現場、保護者を含め地域全体で議論すると良いのではないか。(拠点校と総合産業高校にとらわれては、県の再編計画にしかない)

(5) 嶺南、特に若狭地区の再編に関して

基本的に奥越と同じ発想で考えるが、学科構成は異なり水産学科は県に1校しかない。県の方針では、普通科単独校と職業科を集めた総合産業高校の2校体制が予測できるが、それでよいのかを地域で十分考えることが必要だ。生徒減少の状況は奥越と違い時間的にも十分余裕がある。

(6) 坂井・福井地区の再編に関して

県の方針では、農業高校の1校を拠点校、もう1校を総合産業高校にということだが、地域的範囲が広い。いくつかの職業高校や併設されている学科をひとつにまとめて総合産業高校にできるのだろうか。生徒減少の状況はさらに余裕があり、時間をかけて検討すべきではないか。

(7) 定時制の改革について

全県すべての定時制で2010年度から「単位制・二学期制」の導入を凍結して、各学校に単位制導入・二学期制導入を投げかけるべきではないか。昼間二部制についても同様だ。定時制・通信制の単独高校である道守高校と小規模な夜間定時制高校では状況が違う。それぞれの学校が生徒の状況などを十分踏まえて結論を出せばよいのではないか。

(8) 非公開にせず、オープンな議論を

高問協答申を受けて、県教委は再編計画案を非公開で検討してきた。検討に加わった委員には現場教員も多数含まれていたと予想する。しかし、職場で委員になっていることにも箝口令を敷き、どんな議論が行われたのかは全く分からない。

現場で知恵を出しながら議論し、保護者や地域の意見をふまえ、理解も得ていくオープンな議論をすべきではないか。

以上、疑問を呈する形で私の意見を述べた。本県の職業教育の在り方を左右する再編にならざるを得ない。様々な意見に耳を傾け、慎重に決定して欲しい。

No.18

以下の点について意見を提出します。すべて公表してください。

(1)「適正な学校規模・配置」について

①「少子化で中卒生の減少」「高等学校の小規模」で再編・統廃合するのは、公教育の縮小・切り捨てにつながる。少人数だから学校に元気がなくなるとは限らない。小規模でも元気に学習はもちろん、学校行事・部活動を行っている学校は県内外にいくらでもある。むしろ、小規模の方が一人一人にゆきとどいたきめ細かい指導がより可能で、同時に教職員集団の共通理解がはかりやすいためチームとしての教育効果が大きいと言える。多様な科目設置ができないのは財政効率を優先して、小規模校であっても多様な教育を保障する予算や教職員配置などの条件整備配慮をしようしないからである。

さらに、高校をはじめとする学校は全県各地域の教育はもとより地域のスポーツ・文化・産業・まちづくりの拠点でもある。これまで行われてきたきめ細かい教育の機会と条件整備によって学力・体力・競技力向上・後継者育成の裾野を広げてきた役割は大きい。こうした、公的役割の放棄・縮小・切り捨てである。

②「第1次案、第2次案、第3次案」による全県各地区で一律機械的に再編・統廃合を強行するのはきわめて乱暴で、必然性がない。奥越以外の地域では全体として今後の生徒減少傾向はみられるものの、とうてい再編統廃合が必要な数とはいえない。学級定員減と大規模校の学級減で十分対応できる状況であり、きわめて乱暴な計画であると言わざるを得ない。また、その時期も早急に差し迫った問題でないにもかかわらず、拙速に「結論先にありき」で押しつけていることも重大な問題である。

地域には地域の教育事情や住民要求、産業実態などがあり、学校は言うまでもなく地域の財産である。このような強引な再編統廃合計画は撤回すべきである。

(2)「職業系に拠点校と総合産業高校を設置」について

①高問協会長自身が拠点校は「専門店」で総合産業高校は「ファミレス」と述べているように、専門職業教育の内容で差別と選別をはかるものである。しかも、拠点校が農・工・商の各1校だけであとは総合産業高校でよいとすること自体が専門職業教育の大幅な解体・縮小、切り捨てである。

②総合産業高校では総合学科のように進路意識の形成に支障のないようにしているが、他の専門学科の選択科目や転科により、系統的な専門教育の内容を保障することがきわめて困難にならざるを得ない。その結果、現行専門職業学科でさえ資格取得に見合う専門単位数確保が厳しい状況であるに各学科の専門資格がほとんど取得できなくなり、就職にも進学にも進路先の確保、保障ができなくなり無責任な学習内容となってしまう。このことは、すでに実施されている他県の総合産業高校の例を見ても明瞭である。

③このようなたった3校のみの拠点校以外をすべて総合産業高校にしてしまうことは公教育の責任放棄と教育の差別・選別のみならず、公教育による地域格差と差別、交通費や住居費の負担可能などによる経済的格差と差別を持ち込むことである。

④全県的に拠点校各専門学科1校に集中するとなれば、一方で大規模校化をつくって、その結果としてさらに統廃合を意図的に進めることになる。県下で一極集中と地域間格差と差別を持ち込むことは西川知事の主張する「道州制の導入反対」の主旨にも相いれないが、知事としての説明責任が一切されていない。また、以前の知事は「水産高校は存続させると」明言していたが、西川知事はどう考えるのか県民に直接説明すべきである。

### (3)「第1次実施計画」について

①奥越地区では総合産業高校(「ファミレス」)しかなく、福井地区までいかないと拠点校(「専門店」)で学ぶ場が保障されていない。さらに、勝山地区には職業教育を学ぶ場が一切なくなる。勝山高校の「情報コース」も進学が前提の普通教科中心であると聞いている。中卒生や志望者が少なくとも職業科希望者がいる限り、その地区で学ぶ場を保障することは必要で、勝山高校には商業科などの職業学科も併設すべきである。また、近年は大学などの受け入れ体制の変化により職業学科からでも進学が十分可能になってきている。むしろ、職業学科からの進学者の方が目的意識がはっきりしていて、学問研究の意欲が高いと言われている。

②以前の高校再編の議論では、大野東と勝山南の統廃合ではなく、勝山と勝山南の統廃合であったにもかかわらず、今回の計画が変更されたことについて十分な検証と説明や議論の場の保障が全くされていない。たとえば、卒業生の地元定着率・地域の担い手など勝山市の発展やまちづくりの観点からいっても地域衰退につながるという点で大きな禍根を残す。

### (4)「計画案」の検討やすすめ方について

①一部の関係者で非公開に計画案が拙速にまとめられ、地域住民や学校現場の意見を聞かず、説明すらない。普通科全県1区の導入の時には各地区別の住民説明会を行っていたが、今回はその予定もない。

②以前の再編議論の際には、勝山ではPTA主催ではあるが県教育長も報告した市民シンポジウムも開かれていた。知事も「ざぶとん集会」を各地区・各界とすすめてきているのだから、市民と直接対話の場を保障すべきである。

③教育は国の新自由主義的「改革」に沿った財政効率や市場経済的な競争原理で議論されるのではなく、憲法で保障されたどの子にも等しく教育を受ける権利を保障するという観点で議論され、行政は条件整備のための政策をすすめるべきである。また、全国的な再編統廃合に迎合することによってこれまで積み重ね築いてきた福井の教育・文化・スポーツを衰退させることなく、学力や体力など全国に誇る教育県福井にふさわしい独自の高校政策を思い切っすすめられるよう知事をはじめとした県の英断を期待したい。

No.19	<p>少子高齢化等時代の変化等に即応した再編計画として賛成であるが、高等学校教育については私立学校との役割分担も重要であると考えます。義務教育等は別として、民間の活力を活用できる分野は、極力役割分担をして財政負担の少ない「小さな県政」を目指すべきと考えます。</p>
No.20	<p>県立高等学校の再編整備計画について</p> <p>福井県が進めている上記計画について意見させていただきます。職業系専門学科の再編整備について、エネルギーの生産地・高いものづくり技術をもつという福井県の特徴をいかし、「地域の産業の将来を担い、地域に根ざす人材の育成を図るための学科構成とすることを基本とすること」には賛成である。しかし、実際に自分が社会に出て、社会人には業務に関する能力以外の総合力も必要だと感じている。</p> <p>多感な時期である3年間を、限られた分野の学習になり、小さな固定観念の中で育てることのないよう、感性豊かな「ひとづくり」を目指し、子供の目線で慎重に進めていただきたいと思う。</p>
No.21	<p>1. 総合産業高校設置について</p> <p>各地の職業系高校の中には、入学志望者の減少や、また必ずしも教育目標に則さない入学生徒が増えている事は事実であろう。県教委によれば、中学卒業者は平成元年3月の13,483人をピークとして減少傾向を続け、平成34年3月には7,208人と見込まれるとのことである。一方県立高校は平成3年度に三国高校川西分校の廃止以降30校(本29、分1)の体制が維持されている。</p> <p>このような状況の下では高校の統廃合を進めるべきであるとの意見も出てくるであろう。しかしながら、本県は高校などへの進学率が高く、高校教育が普遍化して来ているので、近い将来においては、普通高校においても、少人数学級30人を標準として、きめ細かい教育が必要になると思われる。</p> <p>したがって平成34年3月の中学卒業見込み数7,208人に対して、私立高校との関係を考慮しても県立高校30校は決して多いとは言えない。職業系高校を統廃合して総合産業高校を設置する事は結局、県立高校の数を減らすことになり、県高校教育の縮小を招くことになる。多くの卒業生もあり、地域との関係も深い高校は出来る限り存続を図ることが望まれる。</p> <p>しかしながら、高校の設置運営には多額の経費が必要である。県の財政が極めて苦しい中では、なかなか困難である。しかしギリシャの哲学者アリストテレスは「国家の運命はかかって青年の教育にあり」と述べている。また19世紀のフランスの歴史学者ミシュレは「政治の第1課は何かと問えば教育である、第2課はと問えば教育である、第3課は？それは教育である」と述べたという。教育予算について県当局の英断を切望したい。</p> <p>したがって総合産業高校の設置の前に次のような施策がとれないであろうか。</p>

1)各職業系高校に普通科を併設すると共に校名は産業名を省き、その地域を表すように改正する。

2)普通高校にも出来れば、何れかの職業系の学科を併設する。例えば、坂井農業高校には、新たに普通科を設置して坂井高校とする。こうした改革は、いわゆる中高一貫教育の効果的な活用をもたらすので地域と高校のつながりも一層深まり、地域、社会からの支援、協力も進むと思われる。今後も高校運営は県立とはいえ地域の自治体や諸団体の支援、協力が不可欠である。

また、職業系学科に入学したが、不本意入学であったので、意欲を出さない、あるいは出せない生徒に対しても普通科が併設されることにより、容易に転科することも可能となろう。これは普通科の入学者についても同じことが言えよう。また不本意の入学者であっても、それらの生徒はその地域の生徒である。それらの生徒に意欲を出させ、もたせるよう工夫する必要がある、換言すれば、地域社会、生徒のニーズに合った高校の体制をつくるのが大切である。

普通科についても、進学指導一辺倒についてゆけなくなったり、不登校となる生徒も少なくない。またすべてが進学するわけではない。就職する卒業生も多い。また大学等へ進学しても、いずれは就職するわけである。したがってすべての高校において職業に関する基礎的な学習すなわち職業に貴賤なしという考え方等の教育が大切と思われる。そのためには職業教育を明確に位置づけて何かの実習を体験し学ばせることが必要である。

くどいようだが、高校には可能な限り普通科と職業科を併設することが、双方の学科にとって教育上(+)の効果をもたらすと思う。職業系高校に普通科を併設することは施設、設備の面では、それほど大きな困難があるとは思われない。

## 2. 拠点校となる専門高校の配置について

すべての高校に普通科と職業科を併設するという見地から、普通科を併設しつつ、その産業分野の学習教育の中心的役割を担うという意味での拠点校として考えたい。したがって拠点校であっても校名は産業名を省き、他の高校と同じく、その所在地を表すような校名に改正する。

高校教育の職業教育においては、高度な専門的な知識、技術を学習するというよりは、実践的な実習主体の学習の場でありたい。実習を主体とした職業教育によって人間教育を行うことが大きな狙いであることは先にも述べたが拠点校であっても変わりはない。

また拠点校においては他の高校、特に職業系の学科の併設が困難視される高校の普通科の職業実習等を容易に受け入れる体制を強化してゆくことが重要であろう。さらに拠点校であると否とを問わず、職業系学科の担当教職員の社会体験的研修を積極的に進めることが望まれる。農業科の担当教員について見れば、農業試験場、畜産試験場あるいは園芸試験場などと、人事交流は容易ではなからうが、研修、見学などできるだけ行うことが必要ではなからうか。工業科、商業科、水産科も同じである。

また、職業系学科の卒業生にもかなりの大学進学希望者がいることに対して出来る限り選択科目の幅を広げることが望まれる。そのためにも普通科の併設は効果的であろう。

さらに地域によって産業の性格が若干異なるので、例えば農業では、坂井平野、坂井丘陵地を背景とする農業教育と福井市近郊のハウス園芸等を背景とする農業教育とでは自然と異

なってくるであろう。この点については、必ずしも拠点校に拘わることなく、地域の特性に応じた職業教育が行われることが望ましい。

### 3. 再編整備第一次実施計画 奥越について

既に総合産業高校の設置の方針がかなり具体的に発表されているので、今さらの感じがするけれども、平成21年度の奥越4校の入学出願者(2月19日締め切り)を見てみると、下表の通りである。

高校	推薦	出願	計
大野	16	206	222
勝山	11	141	152
大野東	46	67	113
勝山南	27	34	61
計	100	448	548

単純に1学級30人の少人数学級とすれば18学級となる。奥越以外へ出願している生徒もいるわけであるから、学校間の調整は困難かも知れないが、奥越の4校体制は維持可能と思われる。試案は、下表の通りである。

高校	現行	試案
大野	普 6級	普 5級
勝山	普 4"	普 4"
大野東	工 3"	普 1"
	福 1"	工 3"
勝山南	商 2"	普 1"
	家 1"	商 2"
計	17"	家・福 1"
		17"

4. 他の事項については検討時間不足につき省略させて頂く。

以上

No.22

「県立高等学校再編整備案」(以下「計画案」)に対して、ここに意見を提出します。

第一に、「1学年4～8学級」という学校の「適正規模」についてです。

この基準は、事実上の「学校統廃合の基準」となっています。1学年3学級を理由に機械的な統廃合をすすめるべきではありません。

高問協答申では、嶺南地区を2015年度、坂井・福井地区2018年度、丹南地区2020年度を見据えた学校配置となっていました。

しかし、「計画案」では、嶺南、坂井・福井地区2013年度とし、1学年3学級以下の学校がある地域から統廃合を進めるとされました。「再編整備」の必要性で少子化を理由にあげていましたが、生徒数の推移に関係なく「学校規模」を理由に「統廃合」を早めることはやめるべきです。

生徒一人ひとりに目がゆきとどき、学校行事でも活躍する場が与えられるなど小規模校ならではの教育効果を必要とされる子どもたちの存在を忘れてはなりません。

第二に、「職業系学科の再編整備」についてです。

「計画案」は、「拠点校」と「総合産業高校」の設置について高問協答申に沿った形で示されました。

目的意識を持つ生徒は「拠点校」、そうでない生徒は「総合産業高校」と分けることは、職業教育の差別化につながります。

また、「拠点校」から除かれた水産・家庭・福祉学科では、農・工・商に比べ、専門的に深く学ぶことが保障されないのでしょうか。

「拠点校」に希望者が集中すれば、競争の激化と高校の序列化につながります。在住する地域の学校を選ばず、「拠点校」に通うことになれば、遠距離通学が増えます。一方、地理的・経済的な理由などで「通えない」生徒も出てくると考えられます。そうなれば、職業教育の格差を助長することになります。

もともと福井県は、職業科と普通科を併設する学校が多く、高校数も決して多くありません。機械的に職業学科を集めた学校をつくるのが、地域の状況になじむとは思えません。「拠点校」「総合産業高校」の設置を進めるのは、見直すべきと考えます。

第三に、「定時制・通信制課程の見直し」についてです。

「計画案」は、「すべての定時制に単位制・2学期制を導入する」としています。

単位取得を重視する考え方は、定時制教育を矮小化して捉えています。定時制教育にも、授業以外の教育活動は重要です。単位制・2学期制は、集団による教育効果の弱さが指摘されています。また、様々な課題を抱える生徒にとって、単位修得を自己責任とされることで、かえって脱落することになる可能性があります。すべての学校に一律に導入する必要はありません。

第四に、「奥越地区の全日制高校の再編整備」についてです。

「計画案」では、勝山高校に大学進学を前提にした「情報コース」が設置されますが、勝山市には職業教育を受ける場がなくなります。また、奥越地域で建設・土木を学ぶことができなくなります。これは、地域住民の思いや産業界の要望を踏まえているとは到底思えません。

2011年3月に勝山市で卒業する中学生は、243名と見込まれています。しかし、「計画案」では、この年の勝山市における全日制高校の定員を180人としています。これでは、勝山

	<p>で学ぶことを希望しても、4人に1人が市外に出ざるを得ない状況となります。定時制を含めた奥越全体の充足率も低く、奥越から福井などへの遠距離通学を強いられる子どもがさらに増えることが予想されます。</p> <p>勝山市民から「この計画案では、将来的に勝山高校がなくなる」との不安の声もあります。2011年度の再編整備実施に固執せず、地域や学校関係者と十分協議し、奥越の高校の在り方について決めるべきです。</p> <p>最後に、今後の進め方について要望をします。</p> <p>県立高等学校は、県民の財産です。しかし、県民の声を聞かず、学校現場や地域の意見集約もないまま「計画案」が公表されました。さらに短期間で十分周知されていないパブリックコメントにより県民から意見を聞いたとして計画を決定することは、乱暴なやり方と言わざるを得ません。</p> <p>まず、「計画(案)」を撤回してください。そして、上から学校のあり方を決めるのではなく、地域での公聴会、懇話会などを開催して幅広く意見を聞き、合意を得ながらすすめることを求めます。</p>
--	---

No.23	<p>小浜市民の一人です。住民の意思が反映されていますか?県の方でどんどん進められている感が致します。</p>
-------	---

No.24	<p>小浜市の特色ある文化は維持されるべきと思います。</p>
-------	---------------------------------

No.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内には、専門分野の拠点校「農林」「水産食品」「科学技術」の3校設置が望ましいと考えます。</li> <li>・伝統や地域活動の尊重、又、嶺南・嶺北の格差是正の故に「水産食品」は小浜水産高校を軸に考えるのが良い。</li> <li>・但し、それぞれの拠点高校は、少子化の中、単独では魅力と活力が欠けるので、福井県立大学、又、福井大学に通じる予科、又、専攻科、二年制を併設し、県内外よりも生徒を募集していくべきであります。</li> </ul>
-------	---

No.26	<p>県立高校の再編は少子化の中、避けられないものだと思いますし、総論的には良い方向だと思います。ただ、社会からの期待や生徒の多様化に対応するためには県立高校と同じく頑張っている私立高校の独自性や役割などにも配慮しながら進めていくことが大切だと思います。</p>
-------	---

## 2 奥越地区の再編整備等に関する意見

No.27	<p>★（奥越地区の新高校は、）2011年4月開校であることを考えると、現中学校1年生の進路指導を始める2009年度には編成後の3校各学科の詳細が分かっておらなければ勧めることができない。定員だけでなく、<u>学科の特徴やビジョン、カリキュラム編成などの詳細情報を早急に公開してほしい。</u></p> <p>★ <u>勝山～大野間の交通機関が十分でない。特に勝山の生徒にとっての通学負担が増すことのないよう、スクールバス運行などの措置を求める。</u>勝山市北部には、福井市内への運賃のほうが安い地域もあり、福井市内への流出傾向に拍車がかかる。</p> <p>○ 高校側の努力として、魅力のある高校づくりが必要である。</p> <p>○ 建設関係の学科がなくなるが、地元での就職の願いがかなえられるような学科にしてほしい。</p> <p>○ 福祉系の学科などでは、特に国家資格をとるために専門的に養成する必要があるが、総合産業学科の中で選択自由なものとするのは実情にそぐわない。</p> <p>○ 県は2/20～3/6までパブリックコメントを実施するという話だが期間が短く広報活動が進んでいない。</p> <p>○ 高校進学時に奥越に繋ぎ止めたとしても、就職段階で奥越地域外に出て行ってしまいそこで定住してしまうのなら根本的な解決にはならない。大局的にみると、仕事をする場の確保や定住を促す政策が奥越地域全体の課題である。</p>
No.28	<p>生徒数が減少する中、県立高校の再編に着手することはいたしかたないことですが、なくなる学校の歴史や伝統がちゃんと引き継がれていくよう、教育委員会として十分な配慮をお願いします。</p> <p>また、勝山南がなくなり大野東に統合されることとなっていますが、勝山から大野に通う高校生の交通手段を、教育委員会は責任をもって確保してください。</p> <p>先日の新聞には、路線バスの活用を検討すると書いてありましたが、学校の始業や終業時間に合わせたダイヤの編成にバス会社は本当に応じてくれるのでしょうか。小浜水産高校に通う高校生の中には、交通の便が悪く、始業1時間前に学校に入らないと、次の便では遅刻になってしまい、結局、学校に行かなくなった生徒がいたと聞いています。</p> <p>行政の都合で再編を進めるのですから、高校生の通学の足の確保は万全なものをお願いします。</p>

No.29	<p>①奥越地域の高校再編整備計画について、4校を3校にして、統廃合した高校の跡地を養護学校にするのではないかという話がでています。しかし、これでは、養護学校の新設は、ますます遅れてしまいます。高校の再編整備計画と切り離して、早急に奥越に養護学校を新設すべきです。</p> <p>②高校においても特別な支援を必要とする生徒への対応が求められています。定時制・通信制の今後の方向性の中では述べられていますが、それでは不十分です。全日制高校での対応を検討していくべきです。</p> <p>以上、よろしくお願いします。</p>
-------	--

No.30	<p>今の養護学校高等部の学習内容の見直しが必要だと思っています。今後奥越に養護学校ができるのであれば、軽度の発達・学習障がいの子供達への幅広い学科を設け、就職・専門学校(大学も含め)など進路に向けての充実した内容の学習ができるよう願っています。そして、それが養護学校の新しいモデル校となり、軽度の各障がいを持つ、家族にも希望をあたえてほしい気持ちでいっぱいです。</p> <p>もう一つ、奥越になくなってしまった商業科の復活を望みます。現在大野高校が進学校のようになり、専門学校・就職にはあまり力が入っていない傾向であるように思われます。(各資格取得の場がない)大野東についても専門の科での強制取得(進級の条件にするなど)の取り組みや先生から生徒への熱意がみられません。(家庭教育にも問題はあると思いますが)(今のやる気のない子どもを見てるだけなのではないでしょうか?)昔のように大野にも商業科があればと残念に思います。</p>
-------	---

No.31	<p>現在特別支援教室で学ぶ生徒の通学においては、多くが養護学校の高等部に限定されているのが現状です。しかしながら、その教室に学ぶ生徒の中にはその発達障害の程度において、ある程度の高等学校の教育課程を学ぶ力のある生徒やスポーツまた農林水産など専門知識を持ちたいと願う生徒たちがおります。またコンピューターなど新たな可能性のある知識を身に付け今後の就職への選択を広げる事も重要だと思われまます。</p> <p>養護学校以外の進学としては、定時制高校も考えられますが、発達障害児の入学試験としては配慮のある入学枠が求められます。また学業の進捗状況においても、単位制にゆるやかな配慮が必要になります。</p> <p>それで発達障害・軽～中度の知的障害者を受け入れる特別支援教室の設置を高等学校内に求める次第であります。すでに先行している都道府県では、指定を受けた高校が独自の課題、教育課程、そして何よりも、各種の作業をこなす職業訓練に止まらずその作業をいかに構築するか学ぶことが行われています。この点において、さまざまな障害の程度を受け持つ養護学校の高等部とは学習内容が違います。</p> <p>先ごろ大野東と勝山南高校の統廃合の記事を知りました。そこに是非とも特別支援教室を備えた学級の創設を要望いたします。そして下記のごとく配慮並びに要望を付け加えます。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 入試の条件の緩和 学力診断によることより中学の特別支援教室からの推薦と面接に重点をお願いいたします。</li> <li>2 ゆるやかな単位の履修をお願いいたします。</li> <li>3 特色のある講座 より実践的な商業的、技術的な科目をお願いいたします。</li> <li>4 この支援教室入学者用の寄宿舍の整備</li> <li>5 他の健常児との交流は部活も含めて同じようにお願いします。</li> <li>6 卒業後の就職先の確保</li> </ol> <p style="text-align: right;">以上</p>
-------	--

No.32	<p>近年少子化が進む中増えつつある軽度の学習障がいやグレーゾーンの子どもの進路の選択の幅が狭く本人の望む進学が困難である。</p> <p>また病弱児や軽度の発達障がい児の進学も同様である。高校から専門学校へと長い時間をかけ学び社会性を身に付けて欲しいと親は願っています。</p> <p>現在、奥越には農業科がありません。そこで福祉や農業など幅広い学科を取り入れ、グレーゾーンの子どもの不登校児も受け入れられる特色ある新しい学校作りを要望致します。</p>
-------	--

No.33

1 勝山南高校の存在意義は充分なものがあります。

現在、新入生の20%近くという高率で中学で不登校だった生徒がいます。ほぼ教室へ入れなかったという生徒も何人かいます。そして、そのうち90%以上が、勝山南高校では皆勤に近い形で適応しています。これは勝山南高校がそれに対応するノウハウを積み重ねて来た貴重な財産と、教職員のチームがあるからです。

特別支援を要する生徒の入学も毎年20%近くいます。この子たちもほとんどが適応しています。また、侵害(いわゆるいじめ)を受けていた生徒の入学と適応率も他校に比べて非常に高率です。

不登校、侵害、特別支援という、現代的には最も社会問題となっている事象に対する分析対応が、高問協ではすっぽりと抜け落ちています、文言はあっても、なおざりです。新制度設立の案では、そのような生徒は定時制へ行く他ない、そっちへ行きなさいということになります。

このことを社会的に、県はどう説明できるのでしょうか？現代的な問題に答えていない再編案は、その責任を問われてしかるべきだと思われます。

2 全県1区へ学区制が廃止されたときから、奥越から福井へ生徒が流出することは、奥越の高校の努力の問題でなく、制度として保護者の心理をあおり、福井市中心の流れを作りました。誕生生徒数が少ない以上に、福井の流出が多いことが、奥越の高校への入学者を減らしています。

しかも、今後拠点校と、全国的に失敗している総合産業高校でおざなりの職業科を設置しようとしていることは、ますます奥越から人を減らし、産業と地域を衰退させ、ひいては奥越地域そのものをつぶしていく施策に他なりません。

このことは奥越地域にとってはもちろんのこと、県にとっても裾野を衰退させ県を衰退させることに他なりません。福井市中心のこのような施策がどうしてまかり通るのでしょうか？あるいはそのことを指摘されて、知事以下責任者はどのように応えるのでしょうか。裾野が見えていない行政は、愚かなエリート主義に典型します。

大野高校や勝山高校の卒業生の5%ほどしか、地元に戻りません。勝山南高校の卒業生は90%以上が地元で仕事についています。逆に言えば、勝山(の産業)を支えているのは、勝山南高校の卒業生なのです。そのことを、今回の改編案を作った方々はどの程度理解されているのでしょうか？

### 3 水産教育に関する意見

No.34	<p>福井県立大学海洋生物資源学科は本年4月から海洋生物資源学部となります。この動きは、長年の地域の要望に基づくものであると共に、海洋法が制定され今後我が国が海洋資源をより一層大切に、依存していかなければいけない情勢とも対応したものと考えております。</p> <p>県立大学では、現在でも小浜水産高校との連携の元いくつかの研究や交流を行っていますが、学部化に伴ってさらに連携を深めて、水産業および水産加工業への貢献をしていきたいと思っています。従って、今回の再編によって小浜水産高校が消滅し、総合産業高校の一部門となってしまうことには大きな危惧を感じます。</p> <p>それに加えて、近年小浜水産高校はアマモの活動やNASAへの宇宙食提供の試みなど、若手の先生方を中心として活躍が目立っています。県内職業高校の中では、その活躍は出色のものとは言えないでしょうか？確かに、少子化に伴い志願者数が減少しているという長期的な傾向は否めませんが、このような水産高校の努力や市民のサポートもあって少し倍率も上向いてきていると言うことも聞き及びます。</p> <p>これからの高校再編に関しては、水産を大切にするためにも、現在の専門性と規模を十分にカバーできるような体制を構築して頂きますようお願いいたします。</p>
No.35	<p>福井県教育委員会におかれましては、平成20年10月に受けた高問協の答申を踏まえ、県立高等学校再編整備計画(案)をとりまとめられましたが、特に水産教育のあり方について意見を述べさせていただきます。</p> <p>近年、少子化による生徒数の減少などの社会変化を視野に入れて、多くの都道府県において高校教育改革が進められていることも承知しております。</p> <p>先ず水産教育について全国の状況を見てみますと、現在全国で水産・海洋教育を取り入れている高校は46校程かと思えます。その中で小浜水産高校のような単独校は30校程であり、その他は併設校等であります。単独校について生徒数を見てみますと400名台が7校、300名台が3校、200名台が9校、100名台が10校、100名未満が1校であり、小規模校として設置されているのが全国の水産高校の特徴でもあります。これには、水産業の低迷や過疎地への立地などが大きく影響していると思われまます。しかし、困難な状況の中にもかかわらず、多くの都道府県が水産・海洋教育の重要性を強く認識する中で水産高校を設置していることが窺われます。ちなみに小浜水産高校は近年生徒数200名台で推移しています。</p> <p>ここで、小浜水産高校のことについて述べさせていただきます。小浜水産高校は明治28年に全国に先駆けて中等水産教育の嚆矢として福井県に設置されました。全国から生徒が集まり日本をリードする人材を育成・輩出してきましたが、社会の変化や近年の水産業の衰退ともあいまって生徒数が減少しております。しかし、小浜水産高校には県下唯一の水産高校として昔から小さな学校としてやってきた経緯があります。高問協の答申では小規模校のデメリットとして学校行事・部活動・生徒会活動等における活力が失われ・・・とありますが、小規模校である小浜水産高校が全く活力に欠けるのかというところではないと思っております。そこでここ数年の小浜水産高校における特色ある取り組みの一端を別紙にて紹介いたします。近年の</p>

主な取り組みを取り上げてみましたが、これらは何れも小回りの利く小規模校だからこそ、臨機応変にしかも果敢に取り組み継続しているのだと思います。

文部科学省でも小浜水産高校がさまざまな教育活動を活発に展開していることは十分承知をしており、そのことが評価される中で平成20年度から3年間の「地域水産業担い手育成プロジェクト事業」が採択されたものと思っております。

さて、この度の県立高等学校再編整備計画(案)では、職業系専門学科の再編整備の中で、拠点校となる専門高校と総合産業高校が提案されています。それぞれの専門学科の教育には拠点校が望ましいのはいうまでもありません。そして、各地域に設置が予定される総合産業高校には危惧されることがあるのではないのでしょうか。

専門学科はそれぞれ特色ある教育活動を展開しています。統合されたために、各専門学科が持っていた特色が失われたり、専門の教育活動に支障をきたすことはあってはならないことです。特に専門学科の実習内容・実習方法を十分に把握し、生徒の実習には不都合のないよう考える必要があります。

しかし、水産科の場合は海が実習の舞台となることが多いようです。危険を伴うことが多いので事前指導の徹底が何よりも重要であります。これが他の学科と大きく異なる水産科の特殊性であります。総合産業高校の場合、学校運営上の問題点も見逃すことができません。県外で農業・家庭・水産の3学科を有する学校がありますが、校長が多忙なのか水産の校長会に出席することがほとんどないとも聞いています。総合産業高校ではこのようなことは起こらないのでしょうか。

高問協などでもご意見が出されていたかと思いますが、専門学科が異なると学校行事なども全く異なる内容となります。また、一律に数あわせに走ると金太郎飴みたいな学校を輩出することになりかねません。特色ある学校を形成することが大事なのです。よく生徒の個性を伸ばさせる教育といわれますが、それ以前に学校の個性が失われることになりかねません。小さくても光るものが、という部分は非常に大事で、その部分を学校の特色にどうつなげていくかという観点で考える必要があります。(これは高問協でのご意見です)

現在私たちのまわりでは、20世紀の負の遺産として地球の温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨、森林破壊、砂漠化、海洋汚染など地球が直面している数々の環境問題が一層深刻さを増してきています。21世紀は「環境の世紀」ともいわれ、日本は環境立国を志向し、福井県は「環境立県福井」を宣言して取り組みを推進しています。地球の環境問題に対して地球規模で対策を考えたときに、地球表面の7割を占める海洋環境が非常に重要となってきます。

さて、21世紀の世界を展望した時に、食糧問題・環境問題・エネルギー問題の解決が喫緊の課題であるといわれています。しかもこれらは何れも、海洋を抜きに考えることはできません。このことを念頭に今後の水産・海洋教育に求められているものを考えると、

- ①海洋などの水界を基盤とする食糧生産技術教育(福井県の漁業従事者の過半数が60歳以上)
- ②海洋などの水界の側面から地球環境の改善・保全に貢献できる漁業後継者育成及び環境管理技術教育
- ③省エネルギー型輸送手段としての海運及び地球規模でのエネルギー問題解決のための海洋開発事業の担い手育成教育

④海洋など水界において、マリンスポーツや海洋観光を通して癒しの場を提供する教育などが考えられます。

日本は国土面積では世界61位(38万 k m<sup>2</sup>)ですが、領海と排他的経済水域では世界第6位(447万 k m<sup>2</sup>)の海洋大国であり、この日本の海域には海底熱水鉱床の巨大な埋蔵金属資源や貴重なエネルギー資源となるメタンハイドレート(氷結メタン)の存在など海洋開発に期待するところは大きいといえます。地球温暖化対策で注目されているバイオエタノールを、日本海の巨大養殖場で養殖した海藻ホンダワラ類からつくるプロジェクトも進められていると聞いています。

ところで、福井県は日本海側の中央に位置し、400kmもの海岸線を有し、全国に誇れる美しい海が残されています。越山若水といわれているように、美しいリアス式海岸を有する嶺南地域には、全国にも稀な水産海洋の試験・研究・学術のネットワークがあります。この水産ネットワークの中で研究や学術的なことは、大学や水産試験場・栽培漁業センターなどでされ、成魚までの成育等の実務面を水産高校が担っていくという連携、例えば、若狭サバのブランド化の取り組みに水産高校が関わっていくことも考えられます。

また、嶺南においては観光漁業の一環として、漁業や海洋の体験ができるブルーツーリズムが取り入れられつつあります。釣りや地引き網・定置網などの漁業そして魚の調理を体験したり、カヌーの体験などが行われています。さらに、地域として食のまちづくりに取り組んでいることを考えると、新しい感覚での漁業、栽培漁業、食品加工、流通に加えて調理分野も含めて食文化を育てていくことが、食育というものを通して地域の特性を生かすことに繋がるのではないかと思います。

水産というと、従来は漁業との関連を考えがちですが、海の環境保全や海洋資源の開発なども含めた幅広い専門性をもたせることが必要であると思います。そのようなことも踏まえて、福井県で唯一の水産海洋性高校という特色を生かして、マリンスポーツなどを含めて、もっとより広く海洋系の分野を取り入れた教育内容が必要かと思えます。

さらに付け加えれば、環境の分野も大胆に取り入れると学習内容の幅が広くなり、さまざまな教育活動の展開が考えられるのかなと思います。従来の水産教育にとらわれずバラエティーに富んだ幅広い教育内容、水産＋海洋＋環境の三分野を、調和した形で学習内容を構築してはどうかと考えます。

そのような中で、若狭湾さらには日本海をフィールドに、国際化に対応した教育、地域に根ざした教育の展開を図ることが特色ある教育に繋がるのではないかと思います。

以上述べましたように、水産・海洋教育につきましては、その特殊性もさることながら、21世紀の課題に十分応えられる将来性をも考慮していただきまして、せめて準拠点校のような形で充実・発展を図っていただきたいと強く要望いたします。

No.36

今回の「県立高等学校再編整備計画(案)」についてですが、全体的には、総合産業高校(仮称)設置等、その趣旨・方向性については、同感であり、賛同いたします。

しかしながら、水産系高校(小浜水産高校)については、以下の観点から、本計画から除外し、別途、方向性を検討する方が適切ではないかと考えましたので、意見として提出させていただきます。ご検討方よろしく願いいたします。

1小浜水産高校の今後のあり方について別途検討することが適切と思う事由

(1)日本で最も古い水産高校であり、巾着網(まき網)漁法発祥の地に根付く、歴史と伝統を持つ高校である(日本有数の歴史・伝統)

(2)エチゼンクラゲクッキー開発(その他エチゼンクラゲ関係研究も含む)、宇宙食開発(JAXA(宇宙航空研究開発機構)も注目)等、地場産業の水産業をベースに、大学並みの全国トップクラスの先進的な研究開発を行っており、全国表彰される等全国的に認知されている(全国トップクラスの研究開発能力)

(3)近年、取組始めた小浜湾のアマモ定植活動は、地域住民を巻き込み、市内はもとより、全国へ波及しはじめている。小浜市が取り組む「食のまちづくり」における環境分野の大きな柱となるなど、高校生が地域社会に大きなインパクトを与えた全国でも希有な事業である。大阪等の都市圏からボランティアのダイバーが参加する等、その活動の名前とともに「小浜水産高校」の名は、地域における環境活動の代名詞となりつつある(全国、地域にインパクトを与えた環境活動(アマモ定植運動)、地域貢献)

(4)オリンピック選手を輩出する等、スポーツ面でも、全国レベルの顕著な成績(ボート、重量挙げ)をあげていること(文武両道、全国トップクラスのスポーツ活動)

(5)小浜水産高校は、小浜市民3万2千人の心のよりどころになっている。また、小浜水産高校生は、隣接する小浜中学校、西津小学校、内外海小、雲浜小学校の児童にとって身近な近所のお兄さん、お姉さんであり、高校との交流により、食育面等において重要な役割を果たしている(小浜市の食育活動の核的な高校となっており、地域の食育活動にも多大な貢献(各小中学校の食育活動に積極的に参画)→統合廃止となった場合、全国有数の食育先進市である小浜市の食育にも影響)

(6)全国有数の水産系研究拠点である県立大学小浜キャンパス(海洋生物資源学部)に隣接し、県栽培漁業センターとも至近距離にあることから、こうした研究拠点と含め、一体的整備を図ることが、福井県の水産研究、水産業及び関連産業の振興・発展にとって重要である。また、京都大学舞鶴水産実験所、若狭湾エネルギー研究センターとの連携も容易である。また、大学、水産高校、県研究所、県漁連、市漁連が有機的に連携している地は、全国的にも珍しく、現場ニーズに対応した実学、また、研究開発を踏まえた最新科学を同時に学習できるといった特色を持つ(日本有数の水産研究拠点になりえるロケーション)

2「県立高等学校再編整備計画(案)」中の問題点

(1)整備計画中の再編整備の必要性(P1)「こうした高い進学志向に加えて、近年の社会情勢の著しい変化は、高校で学ぶ生徒の生き方や考え方に様々な影響を与え、生徒の興味・関

心等が多様化する一方で、不本意入学等により学習意欲に乏しい生徒、不登校経験のある生徒など、様々な課題を抱える生徒が増加し」について、一般論としては妥当な文書と考えるが、小浜水産高校については、あてはまらない部分が多い。

小浜水産高校では、優れた教師陣、教育カリキュラムにより、不本意入学者であっても、水産分野に関する興味、関心を引き出し、1に記述したようなすばらしい成果を生んでいる。

(2)総合産業高校の設置(P2)について、「既存の職業系専門学科を持つ県立高校の再編統合により、複数の異なる職業系専門学科を併設する「総合産業高校」を設置する」、とあるが、小浜水産高校の立地条件(上記1の(6)等)を勘案すると、総花的なコース設置により、水産系の学問を深く、また実地に専門的に勉強できるという特色が打ち消され、埋没する可能性が高い。総合化するよりも、周辺の研究環境等を活用し、専門的に特化させることの方が、小浜水産高校を活かせる可能性が高い。

### 3小浜水産高校の今後のあり方(試案)

たとえば、以下のような方策があるのではないかと思料。

(1)全国有数の水産系拠点(県立大、栽培漁業センター)との一体的整備を推進。水産高校を含め、3者を一体的に整備する。例えば全て独立行政法人化し、福井県立大学の元に、附属高校(水産高校)、付属研究所(栽培漁業センター)として再編。附属高校については、県立大学や京都大学とも連携し、各々への推薦枠も設定。このことにより、有為な生徒の確保、生徒のモチベーション付与も可能。また、所有する船舶も3者で一体的に利用できる等、財政負担も軽減可能

(2)(1)による学習環境の高度化、大学や研究機関との一体的整備により、漁業だけではなく、地元水産加工業者やマルハ、ニチレイ等の水産関係企業への人材供給も可能となる。総花的な知識よりも、専門技術に特化した人材を産業界は希望しており、それに対応可能。

(3)(1)の実現を図った上で、近隣他校の食物関係学科(場合によっては青池クッキングスクール)との単位互換制度を設け、再編による統合なしに、幅広い知識の取得を可能とする枠組みを構築。

(4)非正規労働者等の再教育、高度教育の場としても活用し、高齢化・就業人口減少が顕在化している水産業へ有為な人材を振り向ける。

(5)敦賀を含む若狭一体を、日本海区の水産研究のセンターとなることを目指して整備することも重要。決して実現不可能なことではなく、1の(6)のように研究勢力が集積した場所であること、漁連との有機的な連携を勘案すると、実現可能と考える。教育庁だけではなく、農林水産部局、原子力関係部局、労働関係部局との連携の下、長期的視点で検討していけば、次代の社会構造にも対応した画期的なものとなると思料。

(参考)

附属高校を有する公立大学

・東京都立大学(首都大学東京)附属 桜修館高校

・兵庫県立大学付属高校

(↑2校は中高一貫校である。県立大学の付属高校化を行う場合には、場合により中高一貫校として整備することも一考か)

No.37

若狭地域は、これと言って大きな産業はありませんが、越山若水とも言われていますようにリアス式海岸の美しい自然が残されています。この美しい海洋自然を活用して、民宿を含めた様々な観光漁業が盛んに行われるようになって来ています。このような時勢だからこそ、水産高校の教育に期待するところ大であります。

少子化社会での生徒数減少や経済効率と言うことで、いたずらに学校の統廃合をすると言うことは後世に禍根を残すことになりかねません。たださえ嶺北と嶺南の格差が厳然としてあるわけですので、これ以上の地域間格差を大きくしないでもらいたいと願っています。

若狭地域にとって貴重な教育資産である小浜水産高校を更に充実発展させることによってこの地域の活性化をすすめてほしいと思います。

現在、日本の食料自給率は40%と低水準にあります。これから世界の人口が急増する中で自国での食料確保と言うのが最も大きな課題となっています。

農畜産物は耕地の関係から大きな期待ができない日本においては多くを水産物に頼ることになります。漁業関係者の高齢化も進んでいます。後継者育成も含めて、水産高校の役割が大きくなってくると考えます。

最近、水産高校の生徒の活躍が新聞などで報じられているのをよく目にするようになりました。地域の方々と海洋の浄化活動を展開したり、エチゼンクラゲの粉末でクッキーを製品化したり、部活動で全国優勝するなど、小さい学校ながら生徒たちはよく頑張っていると思います。山椒はこつぶでもピリッと辛い、じゃないですが小さくても光っている学校を更に充実させて守りたてていくことがこの地区の活性化につながると思います。

小浜市は数年前に『食育文化都市』を宣言し、食をテーマにまちづくりに取り組んでいます。水産高校は、とる漁業、作り育てる漁業、水産加工、水産流通、の分野を学んでいると聞いています。まさに食をテーマにした学校と言うことができます。

現在世界の食料問題が人類の大きな課題となっていることを考えると、水産高校の教育を更に充実させて、食をテーマとして地域に密着した学校として発展させていくことが地域にとってプラスになると考えます。

最近水産高校の生徒たちも『エクラちゃんクッキー』や『潮羽二重餅』を製品化したり『宇宙食の開発』をするなど研究熱心と聞いており歴史と伝統のある小浜水産高校は福井県にとって重要な教育資産ではないでしょうか。小規模校でも特色ある水産高校の充実を図ってほしいと思います。

県立高校再編整備(案)について意見を申し述べます。この案では、工業と商業と農業については拠点校を福井市に設置し、他は総合産業高校にする考えかと思います。

この案だと水産高校を近隣の高校と統合する案のように思えます。他県では水産高校を近隣の高校と統合されたために、水産学科としてますます縮小され、入学志望者の減少、学校諸行事と水産教育との関連など正常な水産教育に支障を来すことは明白であります。水産教育の関係(校外実習や乗船実習など)等で取り返しのつかない状態に陥ってしまった学校もあるようです。

どこの水産高校も小規模校ときいておりますが、経済性や高校としての理想像だけで学校の統廃合が決められることはないと考えますが、現在の小浜水産高校は地域に密着した、ま

	<p>た小浜市の食文化都市の一翼を担う、小浜市にとっても絶対に必要な高校なのです。</p> <p>確かに、現在の水産業は低迷していますが、地球上の食糧問題を考えると、近い将来、我が国の食料を水産業に頼らざるを得ない状況が必ずやってきます。大切な食料産業に直結している水産高校を更に発展させてほしいと考えます。</p>
--	--

No.38	<p>福井県高等学校教育問題協議会の議事録で各委員さんのご意見を拝読させていただきまして、県立高等学校再編整備計画案について意見を申し述べさせていただきます。</p> <p>高問協への諮問理由の三点について、何れも減っていくことばかりが上げられている。切り捨てるための諮問という印象が強いが。というご意見に対して、県教育長さんが「高校の再編ありき」では決していない。どこの高校を減らすとか、再編するとか、そのことが目的ではない。とご答弁をされておられます。</p> <p>高問協の会議においては水産高校等の教育について、委員の方々から次のようなご意見も述べられていました。</p> <p>目先にとらわれて、子供の希望が少ないからやめればよいという問題ではないだろう。例えば、全世界的な或いは日本全国的な問題を考えた場合、食糧の問題、エネルギーの問題、環境問題等は非常に重要なテーマになってきている。これは福井県においても重要な問題である。福井県において、福井県にふさわしい、福井県の特長を生かした学科のあり方というものをもう少し長い目で検討することも大事である。あまり目先だけで考えてしまうと、将来に禍根を残す恐れもある。</p> <p>高校の地域的なバランスも、今いいバランスで配置されているものを、この地域のこの高校をなくすとかいうのではなく、多少高校生の規模は減っても、残せる方法というのがあるのではないか、検討してほしい。等のご意見がありました。</p> <p>私も全く同感でございます。学校は大事な教育資産であると思います。特に過疎地ほどそのことを痛感させられます。今、各地域で経済効率の名の下に小さな学校が次々と消えていっております。そのためにこれまで培われてきた大事なものが地域から失われつつあるような気がしております。そういう意味では小浜水産高校は、若狭地域にとって大事な教育資産ではないでしょうか。水産高校の生徒たちは福井県全域から入学しておりますし、聞くとところによれば、近隣の他府県からも入学しているそうです。水産高校は若狭に立地していますが、近隣他府県をも視野にいれた福井県の水産高校であり、環日本海時代のセンター的役割を果たす学校に位置づけられるのではないのでしょうか。</p> <p>水産高校というと、以前から部活動が盛んで、ボート、ヨット、重量挙げなどで毎年全国トップレベルの活躍をしています。オリンピック選手も輩出しています。部活動の活躍は昔からですが、最近では、市民の方々と海洋浄化の活動をされたり、エチゼンクラゲの粉末からクッキーを製品化したり、宇宙食の開発に取り組んだり、ボランティアや専門分野での活躍が目にとまります。「水産高校の生徒、がんばるとるな」という声をよく耳にするようになりました。将来の食糧問題などを考えると、水産高校をもっともっと充実させるべきだと考えます。地域間格差をこれ以上広げることのないよう、若狭地域から学校を減らすことのないようよろしくお願いいたします。</p>
-------	---

No.39	<p>小浜水産高校は、海のある街小浜の象徴的な学校であると思います。少子化が進むなか、県立高校の再編は避けられないものと思いますが、水産系という特徴のある学科、施設、スタッフを活かす方法はないでしょうか。県立大学小浜キャンパスとの一体化教育などが考えられます。</p> <p>現在、同校では、アマモプロジェクトや、くらげクッキーなど、その特徴を存分に発揮し、新聞紙上をにぎわすなど、地域での存在感は増しています。同校の活用を前提に再編論議が進むことを望みます。</p>
-------	--

No.40	<p>1 水産単独高校は、水産教育に適した学校運営ができます。</p> <p>これからの学校教育は、学校内の授業にとどまらず、校外学習、インターンシップなど校外の活動や県立大学、地元企業との連携事業などを、校長を中心に学校運営することが必要です。しかし、総合産業高校では、複数の学科を担当することになり、各学科に適した学校運営が難しいと思います。特色を活かし、生徒にとって魅力のある学校にするためには、水産単独高校が望ましいと思います。</p> <p>2 小浜水産高校は、全国最古の水産高校であり、福井県の「宝」です。</p> <p>小浜水産高校は全国で最も長い歴史と伝統を有する水産高校であることは、卒業生のみならず、県民にとって「誇り」です。生徒に誇りを持たせることはこれからの教育にもよい影響を及ぼすと思います。「宝」を活かすよう充実発展させる方策を検討してほしいと思います。</p> <p>3 生徒数が少数であっても、学校を活性化することは可能です。</p> <p>現在の小浜水産高校は、各学年3学科ですが、伝統的な実習(雲龍丸、養殖、鯖缶詰など)に加え、外部との連携事業(アマモ、エチゼンくらげ、宇宙食など)や部活動(ウエイトリフティングでオリンピック選手輩出、ボート部が全国制覇など)で大変元気な学校です。小規模であることを逆手にとって、臨機応変の学校運営が可能だと思います。「小さくとも輝く学校」は貴重だと思います。</p> <p>4 水産のスペシャリストを育成するために、水産単独高校は必要です。</p> <p>県内唯一の水産高校であり、滋賀県、岐阜県、大阪府に水産高校はありません。石川県は高校の1コースでしかなくなる、と聞きます。農業、商業、工業科は、拠点校と総合産業高校の組み合わせが可能ですが、水産科は現在でも1校のみです。水産のスペシャリストを育成するために、小浜水産高校が、この地域の水産拠点高校として存在するようになれば、と思います。小浜は県立大学、国や県栽培センター、水産加工企業などがあり、環境に恵まれていると思います。</p> <p>5 日本海側の水産教育機関として、福井県立大学との連携を深める。</p> <p>学校の適正規模を1学年4学級以上の枠にあてはめる考え方では、良い結果が得られないと思います。福井県立大学では、今年の4月から「海洋生物資源学部」となり、定員が50名と</p>
-------	--

	<p>なります。これは、日本海側の水産を研究する大学としての意義が評価された結果だと思いません。水産高校も、その意義・特色を踏まえて、少人数であっても単独高校として、県立大、関係機関、地元企業と連携を深め、教育内容の充実をはかるのがよいと思います。</p> <p>6 福井県は人口が少ないが、〇〇日本一、〇〇全国第二位などと好成績をあげ、全国にアピールしています。(小さくとも、すばらしい環境がある)</p> <p>もし、都道府県の再編を考えると、福井県が隣県と合併することを良しとするでしょうか。福井県は小さくとも、この地域のことをよく知り、活性化する熱意を持ち、自立する覚悟をしています。小さいことだけで再編するというのは、かえってマイナスの効果しか生まないと思います。</p> <p>7 水産海洋教育は今後とても重要な教育分野です。</p> <p>地表の7割が海で、日本は第6位の海洋を有しています。食料問題、環境問題、エネルギー問題等、現在世界・日本が直面している課題に、大きな役割を果たすのが海洋です。これからの水産海洋教育では、従来の水産教育に加えて、食・調理、環境、マリンスポーツなどを組み合わせて行うことが考えられます。福井県として、水産業、水産教育の重要性を認識し、それを高校再編に反映していただくことを希望します。</p>
--	---

No.41	<p>国内の食料自給の大切さや食の安全性が見直されるこの時代の今こそ、地元の将来に涉って農業や水産を担っていく若者の教育が必須とされて当然だと思っています。その時、小浜市の水産高校が消える可能性が出てきているのは憂うことです。総合職業高校の一部として統合されるというのは、ゆくゆく水産分野の時間も減り、中身も薄くなっていくことでしょう。お話を初めて聞いて驚いてしまいました。 お金の為に人の命の教育が軽んじられてゆくようで哀しく思います。</p> <p>海とともにある福井県であることから、小浜市の福井県立大学生物資源学科が学部昇格する時に、肝心の水産高校をなき物とする計画が浮上していること自体めっちゃくちゃ行政って感じがして変です。</p> <p>どうぞ冷静にお考えいただき、未来の子どもたちに自慢出来る町づくりを本気で取り組んでいただきたく思いますよう、心よりお願い致します。</p>
-------	---

No.42	<p>高校の再編計画案を読ませていただきました。生徒数の減少などで再編計画が策定された経過については理解できます。</p> <p>しかし教育は100年の計であるべきだと思います。それを考えたときこの計画では福井の未来を生み出すことができないのではないかと考えます。</p> <p>工業国日本への人材の供給という目的が戦後教育の大きな目的であったと思います。それはそれで光の部分と陰の部分を併せ持ちながらも一定の役割を果たしてきたと思います。工業化によって豊かさと便利さ、人間としての幸せが手にはいると考えて互いに競争しながら私たちは走ってきました。教育もこのような豊かさを手にするための学びのシステムでした。たしかに私たちは物質的な豊かさと便利さを手にしましたが、同時に多くの物を失ってしまったこと</p>
-------	---

	<p>に今気がつきつつあります。</p> <p>世界中の自然環境を破壊し、気候の循環をみだし、農地は農薬だらけになり、アレルギーや原因不明の病気が広がり、山川里海の生き物は急減し、わたしたちは自然の一員であるにもかかわらず自然からどんどん遠ざかり、家庭、社会をはじめ人間どうしの絆もばらばらになり、戦争や犯罪が絶えず起こり、ついには投機経済となった世界の経済システムも今崩壊の危機に直面しています。そして世界食糧危機が目の前に迫っています。しかし日本の食糧自給率は40%を切っているのです。</p> <p>そして今時代は歴史的かつドラステックな大転換が始まっています。この大激変の先に今までと同じ工業化社会が続くとは思えません。時代は今までの競争原理にたつ工業化社会からもういちど自然に根ざした共生原理にもとづく社会システムに移行していくと思います。なぜならそこにしか持続可能性を見いだすことはできないからです。もしこの移行に失敗すれば日本の国も人類も存続が不可能になるでしょう。</p> <p>福井県の教育行政においてもこの大きな転換点にあってこれからの新しい時代をになう人材を育成するという長期的なビジョンを持つ必要があると思います。</p> <p>そのためには高校教育段階に於いて農業、林業、水産業の第1次産業を中心に据えた教育、すなわち農林高校、水産高校を最重点教育としていくことが大切であると思います。ここで山川里海の自然にふれ、学び、体験しながら、循環型の農業、林業、水産業の再興と新しいライフスタイル、価値観、アートを創造していくことに新しい21世紀の未来が始まると思います。ここでの協働体験の中で人間の絆も回復していきます。ここでは知識が暗記するだけの知識から仕事に、生活にいかせる生きた知識となっていくます。学ぶ喜び、発見する喜び、考える喜びが生まれます。</p> <p>農業・林業、水産業での教育が他の分野の教育もリードしていくという今とは逆転した教育が必要となってくると思います。再編計画は今崩壊の危機に瀕している既存の工業化社会の存続を前提とした計画であり、その上での生徒数減少を考慮した計画と感じられます。</p> <p>時代の先を見つめるならば農林高校の復活、小浜水産高校の存続が必要であると思います。生徒数が減少する中でも質の高い教育を創造し続けるならば、生徒は必ず増えていくと思います。</p> <p>いま小浜水産高校ではアマモプロジェクトで活動している高校生を見ているとこどもがどんどん成長している姿を見せてもらえます。ここに教育再生の原点を見ます。教育の本質があることが分かります。実体験が無く、紙の上の知識を覚えることだけが中心となり、点数での一喜一憂を強いられている進学校の生徒にはない姿があります。</p> <p>小浜水産高校存続と若狭農林高校の復活、そしてその重点化を願います。</p>
--	---

No.43	<p>先ごろ発表された県立高校の再編計画をぜひご再考をお願いしていただきたい一心で筆を執らせていただきました。</p> <p>小浜水産高校ではダイビング部がアマモマーメイドプロジェクトを開始して以来、生徒たちの熱意に胸を打たれた多くの市民が活動に参加し、市内に活気をもたらしています。また、生徒たちは地域の小学校に出前授業を行うなどして、多くの小学生に環境教育を行っています。</p>
-------	--

わたしは、ダイビング部の生徒のなかに、中学生のときには不登校や保健室登校だった子が活動を通して本来の能力を発揮するようになり、市民に対して活動に関する説明をするなどの活躍をするようになったことを生徒本人からお伺いし、とてもそのような過去があったとは思えない成長ぶりに驚愕すると同時に、この子たち数人をこれだけに成長させる高校とはなんとすばらしい学校なのかと心を打たれました。また生徒たちから活動の説明を聞いた多くの市民が、生徒たちの熱意と努力に涙を流していた光景を思い出すと、いまでも胸が熱くなるほどの感動がよみがえります。

漁業者を苦しめるエチゼンクラゲを活用した「エクラちゃんサクサククッキー」の開発でも、小浜市だけでなく、福井県の新しい土産物として欠かせないものになっています。その経済効果は、人口約3万人の小浜市にとって無視できないものとなっているように思います。

生徒たちは、漁業者の一助になるという目標を掲げ、自発的に朝早くに登校し、夜遅くまで研究を続け、その成果を手企業に協力を求めて断られ続け、落胆をくり返しながら、開発にこぎつけたのです。

こうした取り組みのうえに、現在の宇宙食の開発があります。もし生徒たちのこの夢が実現すれば、小浜水産高校で学ぶすべての生徒たちは、地域の課題を見つけ、その解決方法を探り、実現させていくという経験を通して、さらに多くのことを学びとるでしょう。また、こうした経験によって培われた自信と誇りは、卒業した後に社会で生きていく大きな心の支えになることはまちがいありません。

こうした実績を通して、小浜水産高校は市民に明るい話題を提供し続けており、いまでは水産高校は次に何をするのかという期待をもって注視されています。

現在は世界同時不況で世界経済が停滞していますが、去年は世界的な食料価格の高騰によって約30か国で食料暴動が起きました。世界は飢餓という問題を解決できないまま21世紀を迎え、昨年秋に始まった経済危機と、地球温暖化による気候危機が、さらなる飢餓を生み出しています。

そうしたなかで、世界第6位の排他的経済水域をもつ日本は今後、海から食料だけでなく海藻を原料にしたバイオ燃料、洋上風力や潮力・波力発電などのエネルギー資源の供給地として活用していかなければなりません。水産教育は、こうした長期的な視野に立ち、将来の低炭素社会に必要な問題解決能力をもつ人材を育成するものでなければなりません。

アメリカのオバマ新大統領は、施政方針演説において、「短期的な利益を追求したことによって世界を巻き込む金融危機を引き起こした」と語りましたが、長い歴史をもつ小浜水産高校を再編することは、いま求められている長期的な視野に立ったものではなく、短期的な視点に基づいてはいないでしょうか。日本に多くの優秀な人材を輩出してきた福井県の教育は全国に誇れるものであり、その実績をつくりあげた福井県教育庁もまた、輝かしい歴史に彩られています。そのような福井県教育庁であれば、まちがったご判断をなさることはないものと確信しております。

No.44

若狭東高と小浜水産高を統廃合して、現在の農・工・水の専門学科を縮小するというのは、正に時代に逆行していると思う。特に、水産高校は、県内で唯一の水産専門高校であり、ここでしか学べない事、ここでしか得られない事がたくさんあります。最近の報道をみても、宇宙食開発で宇宙飛行士の方よりメッセージが届いたり、環境保全活動(アマモプロジェクト)は、市民に定着し、西川県知事との対談でも話題に上がっています。

これらは小浜水産高校という場所で生徒自身が気づき、教師がそれをサポートするという理想的な形ができています。こんなにすばらしい環境を「少子化・少予算」ということだけでなくしてしまっただけではいけないと思います。

農・水・工、どれをとっても専門的な職業系高校はなくしてはいけない。特に、県内唯一の水産高校は絶対に存続させるべき。第一次産業の必要・重要性は、環境や食料確保、食の安全などの面、また、雇用の面で見ても、今大きい事は分かっていますよね。専門学科の縮小は、正に時代に逆行しています。

若狭高のホーム制の廃止、若狭農林から若狭東への転換、どちらも失敗ではありませんか。もう、同じ過ちを繰り返してはいけないです。絶対に！

水産高が県の予算の負担になるという前に現場で行われている教育のすばらしさにしっかりと目を向けてください。

実業科縮小、再編のメリット、目的は何なのでしょう。進学率を上げる事は、福井県にとってどんなふうにも有効なのでしょう。学力向上と普通高校を重視する事は同一でしょうか。

若狭農林高校が総合学科の若狭東高になり、ほんと一に何の魅力もない、「高校卒業」という名前をもらうだけの学校になりました。もちろん技術系の生徒、先生の中には、資格取得に一丸となって、熱く取り組む姿も見られ、大変すばらしいですが、ほんの一部の先生の努力のみで、学校全体として何の特色もなく、活気のない学校生活です。今の時代にこそ、「農林高校」としての役割が重要だったと思います。貴重な施設、農場を持ちながらなんと悔やまれます。

若狭高校ホーム制廃止についても同様で、ホーム制の意味を理解できない嶺北出身の先生の「職務怠慢」又は「大人としての自覚、責任のなさ」によって、ホーム制は衰退したのだと思います。画一化が有効でないことは、今の時代、誰にも分かる事です。「全国で唯一のホーム制」、これが若狭にとってどれだけ大切なことで他地域に向けて武器となっているか。

「農林高校」も「ホーム制」も、「人を育てる場」だったのです。今、小浜水産校は、正に「人を育てて」います。前2校と同じ失敗を繰り返してはいけないのです。

確かに、少子化、入学者減少という事実もあるでしょう。しかし、それだけで「じゃあ実業科はなくしましょう。お金がかかるし」でいいんですか？それが「大人の仕事」なのですか。そう、水産高校の設備維持には予算がどーんとかかりますね。でも、だからこそ、県として責任持って、守っていくべきではありませんか？

私立校ではできない事を誇りを持って維持すべきではありませんか。若狭農林を失くした事、同じ失敗は絶対認めません。

第一次産業に就き、地域を支える人材を育てること、学力重視の教育からはじかれて行く道を見失いそうだった子どもをていねいにすくい上げ、社会へ送り出すこと、それが大人の役割であると、小浜水産高校の先生方は知っておられます。

「アマモマーメイドプロジェクト」「エチゼンクラゲ商品開発」「宇宙食開発」等、今更言うまでもありませんが、担当者の皆さんは、一度小浜水産校へ足を運んでください。「人」を見てきて下さい。「学力」や「数字」ではありません。

「小浜に小浜水産高校があること」が大切なのです。大人として、本当にやるべき事をよくよく考えて下さい。

小浜水産高校と若狭東高校の統廃合に反対です。どちらにもメリットはないです。地域にとってもなんの利益もありません。福井県全体で見ても、嶺南と嶺北では格差がありすぎることはみんな承知していますが、この上にまだ若狭地域から高校を減らし、若狭高校のホーム制の廃止、若狭農林高校の総合高校への転換という過ちを反省もしないまま、また地元の財産である水産高校を廃校にしまうことに大きな疑問と憤りを覚えます。

なくしてしまった全国唯一の縦割りホームルーム制、違和感を感じながらもその中で日々感じ取り学んでいく先輩とのやりとりや社会性、『異質のものへの理解と寛容』の精神。若狭農林の農地や畜舎での農業実習、生命とのふれあい、命の授業、職業に対する誇りや自信、これらは在学中にはその意味や価値を全て理解できるわけではなく、卒業してから自分の財産になっていると気づくのです。決して、テストや成績表の点数、偏差値のようにその場で数字で判断されるものではありません。しかし、残念ながらホームルーム制度も、若狭農林の農地や畜舎ももう体験することはできません。

普通高校ってそんなに価値ありますか？普通科の先生ってそんなにお偉いんですか？進学率ってそんなに大切ですか？大学の授業や、ネクタイしめた人だけで、世の中動きません。

普通高校に進学する子供たちばかりではありません。学校の先生って大半は『勉強ができないこと』を知らないから、挫折していく子、ハズれてしまう子は置いてけぼりです。中学生で『もうアカン』と、人生を投げたしまわなければいけない子達も出てきます。(学歴社会)そんな子達が息を吹き返し、いろんな経験をして、学びの機会を得るのが、かつての若狭農林高校であり現在の小浜水産です。そこで育った生徒たちが、地域を支えています。小浜水産の生徒と先生方の取り組みは、全国に誇れるものです。

登校拒否寸前だった生徒が、小学校でアマモプロジェクトの出前授業が出来るまでになりました。エチゼンクラゲの粉末、商品化にたどり着くまでには、何代もの生徒の実験がありました。「先生、うちの缶詰めも宇宙に行ったらええのに」というつぶやきを拾い上げて、学校の設備をハサップ衛生基準に整えた先生の努力、それが実りジャクサの宇宙飛行士の方にまでつながりました。部活動でもボートやウェイトリフティングでは素晴らしい成績をおさめています。どの生徒も、ほんとに笑顔が輝きイキイキしています。

ここにおられる先生方は、全国から集まったプロフェッショナルであり、教育者としての熱い想いと責任を持った正しい大人です。統廃合によって、この笑顔が消え、小浜に集まった熱い先生方が去ってしまうのは、地域にとっての財産をなくしてしまうことに等しいです。

海があり川があり山があるこの小浜の地に、日本最古の水産高校があること。市内には、

	<p>県立大学の生物資源学科、栽培漁業センターがあり、水産加工会社がいくつもあります。近隣には海浜自然センターもあります。この小浜の町に、小浜水産高校があることが大事なんです。</p> <p>子供たちの気づきを応援しよう！と立ち上げたのが『アマモサポーターズ』です。大人ではなく、子供が主になり、大人が応援する。でも、実は元気をもらえたのは大人たちでした。初めての冬、生徒たちは極寒の海に潜り、アマモの苗を植えました。しかし、この程度でこの生徒たちが卒業するまでに、海がきれいになるわけではありません。気の遠くなるような時間がかかることは承知の上で、彼らは再び冷たいヘドロの海に潜り、後輩に想いをつなぎます。彼らは決して『アマモクラブ』ではなく、『ダイビング部』です。自分たちが潜りたい海を自分たちの手できれいにしたいという想いなのです。この姿に大人が動かされ、少しずつ小浜の町が動きはじめました。</p> <p>実業高校の維持には予算がかかることは分かりますが、それだけのものを子供たちは学び得ています。雲龍丸は大事な学びの場です。図書館やPCではとうてい得られない貴重な学びです。</p> <p>同じことが、若狭農林の農業体験や畜産実習にもありました。鶏卵から殻を割って雛が産まれてくる瞬間に立ち会えたり、夏休みに毎日汗を流して測量実習をしたり、野菜の直売をしたり、今なら『最先端』の『自給自足』の『生きる力』をかつての農林高校では学んでいたのです。</p> <p>繰り返し言いますが、若狭高校、若狭農林の二の舞はごめんです。再度、よく現場を見ていただき、これから何が必要か、大人が示すべき道はどこか、を考えてください。よろしく願います。</p>
--	---

No.45	<p>前略、食のまちづくりを進める小浜市において、水産業は欠くべからざる職域であり、その教育母体となりうる水産高校の存在は絶対的なものと考えます。これからの交流人口増大の為、この「食材」という点からも、このような教育機関は必要欠くべからざるものと思います。</p>
-------	--

No.46	<p>現在の小浜水産高校は、今後の水産業界を背負って立つ若者の育成の為、がんばって勉強をしています。今後の資源確保の為にもいろんな研究を行っています。</p> <p>又、小浜水産高校は、部活動にも力を入れていて、ボート部、ウエイトリフティング部等の部活動に対しても世界に通用する人材の育成を行っています。それに、水産業、海運業等に従事するOBの方々も多数居られます。</p> <p>今後の為にも、小浜水産高校の継続を宜しくお願い致します。</p>
-------	---

No.47	<p>福井県には水産業や農業といった文化が強く根付いています。そのなかでも水産や漁業は重要だと思う。今、小浜水産高校は大学との連携の強化などを行なっている。水産教育の向上などをはかり、福井の水産業の将来を担う若者を育ててほしい。福井の漁業の発展のために水産高校での水産教育の推進、強化をお願いします。</p>
No.48	<p>県立高等学校の再編整備計画により、小浜水産高校がなくなるのが非常に残念でなりません。</p> <p>水産業にたずさわる者として、水産高校の活動に励まされる面が多々ありました。食品科の研究発表から、実際に製品化され、店頭にならぶ商品が出たり、「マーメイドプロジェクト」により、環境に対する意識が大きくなりました。</p> <p>小浜水産高校の存続は、今後の水産業の活性化に必要不可欠だと考えます。ぜひとも、存続をしていただきたく、お願いいたします。</p>
No.49	<p>県を北から南へと走る海岸線を持つ福井県にとって、水産業とそれともなう水産教育は非常に重要であると考えます。生徒の数が少なくなっていく(少子化も含め)という事で、安易に統廃合するのではなく、特色ある教育をもっともっと発展させてほしいという観点からも「小浜水産高校」は単独で残してほしいと願っております。</p>
No.50	<p>県外から見ると若狭は非常に海の幸に恵まれている場所だと思います。このような地域では、水産高校のような特色ある学校が福井に果たす役割も大きいと思います。又、若者に、水産業の重要性も伝えなければならないと思うので、水産高校は、今後発展させていかなければなりません。</p>
No.51	<p>現在、福井県立大学生物資源学部海洋生物資源学科では、多くの魚介類を使用し、研究を行っています。福井県立小浜水産高校と共同で行っているプロジェクトもあり、(アマモ場再生プロジェクトなど)今後、さらにお互いの学びの「質」の向上が期待されます。水産資源に恵まれた、この小浜での専門教育の場を末永く残してほしいと思います。</p>
No.52	<p>水産高校での水産教育は、地域の水産業の活性化に重要だと考えます。福井県が組込む水産業をわかりやすく、地域の人々へ伝えるのに重要な役割を担うことができます。県立大学でマサバの養殖の研究をしてきましたが、ぜひ水産高校にマサバ養殖を引き継ぎ、発展させてほしいと希望しています。</p>

No.53

県立高等学校の再編整備計画で、小浜水産高校が統合の方向で検討されているようにお聞きします。私は本校の卒業を誇りとしています。

小浜水産高校は、日本で最古の水産高校であり、日本海側の水産業振興に大いに貢献し、全国に卒業生を送り込んできました。

近年生徒の頑張りで、エチゼンクラゲのクッキー・豆腐、小魚ふりかけなどの商品化に取り組むほか、宇宙食の開発研究、きれいな海の再生を図るアマモの植栽活動など、全国の水産高校の活動のモデルとなるような取組みを熱心な先生や生徒達の頑張りで展開しています。

これも、先生や生徒はもとより、父兄や地元の水産業関係者、同窓会員、ボランティアの皆様の支えと励ましがあって可能としているところで、皆さんの水産高校を愛する力であると思っています。

このような人々の想いや希望が、再編により失われるようなことであれば、悲しい現実と失望せずにはられません。組織再編にあたり経済性・効率性を優先する考え方は決してよい結果を生まないと思います。

いろいろとご事情もあろうかと存じますが、願わくば、福井県立大学の附属水産高校として、独自に存続いただき、真に地域の水産振興に繋げていく、水産国日本(福井)の将来を担う、象徴となる施設に整備していただくよう強く要望します。

No.54	<p>県立高等学校再編整備計画(案)について意見を申し述べます。</p> <p>近年、少子・高齢化の進展や産業構造・就業構造の急激な変化が進む中、福井県においても福井県高等学校教育問題協議会の答申を受け、その答申を踏まえ、県立高等学校再編整備計画(案)としてとりまとめられたようですが、少し、私の意見を述べます。</p> <p>まず、適正な学校規模・配置ですが、日本の学校は1学級当たりの生徒数が多いと思います。つい最近までは、40人学級といていましたが、欧米では20～25人規模が多らしく、それと比較しても35、6人は多いと思います。特に子供たちが多様化している現在の状況を考えると、少人数教育が求められるのではないのでしょうか。職業系学科の教育ではなおさらかと思えます。</p> <p>次に、職業系専門学科の再編整備についてです。農業・工業・商業の各分野については、拠点校を1校配置し、各地域には総合産業高校の設置を考えられているようですが、水産については拠点校は無理でも何かそれに準ずる形がとれないか検討をしてほしいと思います。</p> <p>日本は昔から四方を海に囲まれ、世界でも稀な魚食文化を有する海洋国家です。今、日本の食糧自給率は40%位と低い水準にあり、食糧の過半を外国に頼っています。しかし、近い将来の世界の食糧問題を考えると、自国での食糧確保が大きな課題となってきます。欧米の先進国を見ると、ほとんどの国が自国での食糧確保に取り組んでおります。</p> <p>そのことを考えると、日本でも農業とともに水産業も重要となってきます。農業高校とともに水産高校の果たす役割は大きくなることはあっても、小さくなることはありません。若狭地域には、県立大学小浜キャンパスがあります。県立大学と連携する中で水産高校の充実を図り、発展させることも一つの方策かと思えます。</p> <p>若狭地方には、これといった大きな産業はないわけですが、地域の自然と共生する中で水産業の振興を図っていく必要があると考えます。水産高校の生徒たちが市民の方々と一緒に展開しているアマモマーメイドプロジェクトは大変すばらしい環境活動だと思います。このような活動を展開している学校を大事にしたいものです。</p> <p>前述しましたように、水産高校を良い方向に発展させていくことが、この地域の活性化にもつながっていくことと思えます。</p>
-------	--

No.55	<p>故郷を離れていても、小浜水産高校の活動の報一越前クラゲでとうふやクッキーを作ること、海を浄化するためのあま藻の植付け一は具体的なことで小浜の将来に明るいイメージが得られた。</p> <p>財政困難は承知するが無駄を省く場合、教育に関わることは最後にすべきである。福井県が先般の学力テスト一これに大きな価値を見るわけではないが、人間の一面としては評価する一で高い位置にあったのは県の進める食育の成果だと思う。食育こそは命を大事にする教育だと考える。</p> <p>そうであるならば、今回の統廃合の案の中に土の恵みを教える場はあるのに「水産」の文字が見当たらないのはどうしたことか。四面海である日本であるのにもともと水産科は乏しい。ますます「水産」というものが置き去りにされる感がある。海のもつ大きな、時には恐ろしい力、豊かな命、海そのものを考える場としての水産科の設置を切望する。</p>
-------	--

No.56	<p>昔から小浜水産高校は雲龍丸に始まり水産高校の缶詰等で小浜の地に根付き市民の間に浸透しています。特に現在は小浜市の「御食国」の取組に深くかかわっていると思います。「御食国」の政策に海洋・食品工業は必要不可欠ではないかと思えます。それと福井県立大の海洋生物資源学部に小浜市が応援していることを鑑み、職業系高校として福井県に残すべきと考えます。</p> <p>特に最近の新聞等による宇宙食、エチゼンクラゲ等が発表されている報道等に接するにあたり水産高校の先生はじめ生徒諸君の頑張りに応援したく心より歴史ある小浜水産高等学校の存続をお願い致します。</p>
-------	---

No.57	<p>小浜水産高校についてよろしいでしょうか。</p> <p>県民パブリックコメントの募集ホームページと「県立高等学校再編整備計画」というPDFを拝見させていただきました。それによると「水産系専門高校については、志願者の減少に伴い、単独の専門高校としては成り立ちにくくなっているため、近隣の職業系専門学科を持つ高校との統合による総合産業高校への再編を検討する。」とありました。これは事実上小浜水産高校を近くの高校と統合するかもしれないことを示唆しています。</p> <p>たしかに生徒数が年々減少しています。しかし、水産高校の持っている独特な教育、訓練は他の高校にはありません。それに全国の水産高校より歴史が長い高校です。生徒数が年々減少しているなどの理由で、統合という名において専門部分を縮小し、水産高校自体を消滅させるかもしれないというのはいかがなものかと思えます。21世紀は地球環境にやさしくしようとしている世紀です。水産高校は住民と協力して環境保護に取り組んでいます。他の高校では、めったに見られないことだと思われませんが、このような高校を無くして良いものでしょうか？</p> <p>でも、もしも再編という事になるならば、水産が持っている技術を川、湖、海の自然保護に生かしたり、それに関連した教育などを採用して今後の人材を育成するようになれば・と期待します。</p> <p>以上、失礼なことを申し上げたかもしれませんが、これで意見を終わります。お読み頂き、ありがとうございました。</p>
-------	--

No.58	<p>「県立高等学校再編整備計画(案)」には、反対です。</p> <p>再編整備とは、高校の統廃合の事だと思えますが、教育は効率だけで計れるものではないと思えます。いや、ないはずです。</p> <p>私は、子供を通して小浜水産高校を知りました。そして、水産高の生徒、先生方も知りました。百数十年の歴史ある水産校が無くなる様な事があれば、それは福井県、いや日本の水産業の損失です。これは、どの高校、特に水産校や農林高校の様な一次産業に関わる高校は、是非統廃合せずに存続させるべきだと思えます。</p> <p>もう一度言わせて下さい。教育は効率だけで考えないで下さい。高校統廃合には反対です。</p>
-------	--

No.59	<p>今や水産業は大変厳しい状況だと思えます。家業の漁業を継ぐということも少なくなってきました。時折テレビで親のあとをついで船に乗るといふ若い人を見ると心の中で拍手をしています。</p> <p>水産高校の生徒が水産業としてのかかわりを持っているとは思いません。水産高校は普通校に入れなかった生徒の受け皿のようなところもありました。でも受け皿となってほしいです。</p> <p>今の水産高は素晴らしく、よい先生がおられるようで、生徒は活々と立派な研究をし、発表しているのをテレビ、新聞等で拝見します。このまま合併せず、水産高校の特長、特色を活かした学校であってほしいです。</p>
No.60	<p>日頃は学校教育運営等にご尽力、心より感謝しております。早速ですが、新聞等の情報によると「県立高校再編整備計画」案が発表された。</p> <p>福井新聞によると、私が住んでいる嶺南地方では若狭東高と小浜水産高の再編案が示されていた。</p> <p>若狭東高を歴史的に考えれば前身は農林高であった。そのため所在地は小浜海岸から遠く、山の裾野に位置する。水産高が併設されても大変な不便が考えられる。若狭東高との合併は水産高生として生きて行くことは極めて困難なことであろう。高校の合理性のみの合併案では、陸に上がったカッパとしかイメージが出来ないのである。</p> <p>近年「食」のことは課題が多い。加工品ばかりか魚についても産地偽装など問題である。そこで学科の再編も必要かも知れないが水産の名前までも捨てることは出来ない。</p> <p>幸い小浜市には県立の水産系大学がある。前々からの要望ではあるが、水産高はこの大学の付属高には出来ないものだろうか。多くの小浜市民が付属高化を熱望しているからである。</p> <p>地理的にも近い大学との連携は経費の低減に繋がり、研究の継続には役立つ。良い例がアマモの研究だ。今後の少子化問題にも一番対応しやすい型と思われる。県立大学との連携には時間も必要と思われるが、誰もが納得出来る再編計画が出来上がるよう願って止まない。</p>
No.61	<p>県立高校再編整備計画のうち、とくに嶺南地域における小浜水産高校の廃校について、問題点を指摘いたします。</p> <p>少子化による生徒数の減少のために、従来どおりの若狭3校では経営的にも成り立たないという背景は、それなりに理解しております。しかし、小浜水産高校で展開されている教育プログラムは、海洋水産教育の推進と職業教育を通じた地域社会への貢献という点からきわめて有意義なものであり、少子化の中で特色ある教育を充実させるために継承されるべきと考えます。</p> <p>1. 若狭3校の間では、偏差値のうえでの格差が形成され、中学校における成績の順に進学先が決まるという事態が長い間続いています。一番学力の劣る生徒を受け入れている小浜水産高校では学力の向上や生徒指導に大きな困難を抱えていることは容易に想像できます。このような中で、近年、小浜水産高校では、特色ある教育への取り組みが地道に準備され、まだ端緒的ではあるものの、成果を上げています。例えば、地域住民と一体になった小浜湾の</p>

アマモ再生プロジェクトは、県立大学の学生も多数参加して海洋環境に対する関心を高める重要な活動に発展しました。これらの活動については日本水産学会からも高く評価され、平成19年には高校生の発表に対する優秀賞を受賞しております。また、水産高校の食品製造実習施設は、HACCP(危害分析重要管理点方式による品質・安全管理)を取り入れた全国でも数少ない認定実習工場の一つであり、実習を通じて食の安心・安全管理に対する意識の高い卒業生を送り出してきました。食の安心・安全を確保するためのシステムの構築は大学教育の中でも重視しているところであり、連携を模索していたところです。また、大型クラゲの利用や宇宙食の開発なども高校生のユニークな発想を生かし、生徒のやる気を触発した事例といえます。このような小浜水産高校における新しい教育活動は公立高校の職業教育における一つのモデルであると同時に、全国の高等学校における水産教育のあり方を示しているものです。水産海洋教育における教育改革の萌芽を県立高校再編の中でつぶすことなく、継承するためのスタッフと施設が確保されるべきと考えます。

2. 計画では農業・工業・商業に関しては拠点校を作って、高度な職業教育を実施することが述べられています。水産に関しては、小浜水産高校以外に専門プログラムを持つ高校がないので、従来から拠点校的な役割を果たしてきました。したがって、規模などの点から高校自体の存続は不可能であるにせよ、学科あるいはプログラムを拠点並みに取り扱うことが、他の分野の職業教育拠点校とのバランスの点からも必要かつ妥当であると考えます。とくに福井県内の水産の課題として後継者問題が深刻化しており、数は少ないかもしれないが、将来の担い手を育成するための拠点を残すことが必要です。

3. 水産高校の卒業生が必ずしも水産に関連する職業に就いているわけではないことは承知しております。しかし、21世紀に深刻化する地球環境や食料の問題の解決にむけて、海洋水産という視点から教育を受けた社会人を育てることは、四方を海に囲まれたわが国、とりわけ日本海から多大な恩恵を受けている福井県にとって大きな意義があることと考えます。

4. 計画の中には、単位制の総合高校への移行がうたわれています。15歳の中学生に将来の進路の選択を迫ることは現在ではかなり酷なことかもしれません。したがって1年生では進路選択のヒントになるような授業や基礎学力を充実させるためのカリキュラムを整備することが必要でしょう。しかし、中途半端にならないように2～3年生では専門を絞って、しっかりとした職業教育を実施することが必要です。こうした職業教育の中で、大学で専門的な勉強をしたい生徒には、推薦入学の道も開かれています。要は職業教育を通じて、自信を持って社会に巣立っていくことが必要であろうと考えます。

5. 今回パブリックコメントという形で、県民からの意見を募集されていますが、高校再編の問題に関しては、もっと幅広く、保護者、現場教員、地域住民、産業界や専門家の間で議論されるべきであると考えます。最初に結論ありきではなく、虚心坦懐に議論することを通じてあるべき方向性も見えてくると思いますので、議論を尽くしていただくことを強く望みます。

No.62 福井県立高等学校再編整備計画案に対する意見書

[ I ] 提出に当たって

本文は、県立小浜水産高校に関連付けた意見書とします。

本件の、全国的な再編整備の論議と実施が行われてきた中で、本県においても長年に亘り、懸案となっていた困難な問題に対して、こんにちの成案にこぎつけられたご努力に感謝します。

以下に述べる意見は、やや辛口調になっていますが、今日の教育行政の責任ある立場の方々の意思決定が、未来の県づくり・国づくりに大きく関わっていることを改めてご認識され、関係者各位が、次世代に対して自ら本件に携わってきた証として誇りの持てる決断をしていただきたい。

1. 今回の再編情報について、一般県民は一地方新聞と地方テレビ報道でしか知らなかった。福井県からは公式発表として、2月20日付「県立高等学校再編整備計画(案)に関する県民パブリックコメントの募集」としてHPに出ていますが、パソコンをもたない人々への周知が十分なのか。県外にいる各学校卒業生や、本件に関心を持っている各界の方々への意見を求める手段はどのように講じたのか。

2. 報道のタイミングについて

8回に亘り高問協の慎重な協議の経過を経て、20年10月に答申をされた後、今、高校進学願書受付時期に合わすかのごとき報道は、高校進学思案中の本人や家族、関係者等にいたずらに迷いと不安感を助長させるものではなかったか。教育関係に携わる関係者として、極めて配慮に欠ける公開手法であった。

3. 西川県政の「福井元気宣言」から

ビジョン実現のために・・・として、

①福井の豊かさを支える農林水産業が取り上げられている。

・農林水産業は、福井の命と豊かさを足元で支える大切な産業です。・・・以下略・・・農業、林業、水産業のそれぞれについて、基本的な理念を明示している。

②未来を託す人づくりについて

・学校教育が最も人格形成の基礎となるものであり、・・・中略・・・教育を重視する県民性に支えられています・・・以下略

①、②の中に示されている、地域産業とこれを支えるより良い教育の大切さと連動させているものと理解できる。

このことは、福井の農林水産業を軽視してまで、高度な教育を受けさせることが必ずしも福井に貢献できるとは考えにくい。今の地域産業の後継者不足・高齢従事者等の衰退実態からも推察される。これが「総合産業高校」構想にもつながるように思う。少子化が進むからだけで統廃合するのではない。

〔Ⅱ〕「総合産業高校」構想について

1. (案)によると、水産科は単独の専門高校としては成り立ちにくくなっているため、近隣の職業系専門学科を持つ高校との統合による総合産業高校への再編を検討する。となっているが、このことは、農業系専門学科とも理解するが、若狭東高校には、学科はなくて、生産コースがあると理解している。あたかも水産科が「生産コース」に統合されるような誤解をするので、もう少し説明が必要。

2. 職業系専門学科の再編整備案では、拠点校となる専門高校の配置が述べられている。この中に、農業、工業、商業の3分野について県内に1校は配置する。となっているが林業および水産分野は3つのどの範疇にも入らないのか。嶺南地方にどのように配慮しているのか。

3. 総合産業高校構想で各専門学科の校舎をどうするのか。それぞれ多額の県費を投入していて、水産校舎は海に近いから意義がある。校舎まで統合することには反対する。

4. 県立大学小浜キャンパスに海洋生物資源学部を創られたことに深く感謝します。水産高校と小浜キャンパス、地域経済産業界、小浜市、市民、小中学生など各分野の人々がそれぞれその立場で地域づくりに懸命に取り組んでいる。

5. 県立大学では、文部科学省から「質の高い大学教育推進プログラム」が採択され、「海と湖を舞台とするやる気触発プログラム」が提案されている。この中には大学生をはじめ、地域からなる総合した地域力アップを図ることとなっている。

これらにしても、海の世界、食と食の安全、水産資源の復活等々、水産高校としてもすべてに関連した実学がこれまで以上に求められている。

6. 中高一貫教育の中で、さらに職業系教育を徹底され、中学生が自ら進学を希望するような環境づくりが重要。

職業系高校の生徒の意識調査によると(自分が入学した高校は第一志望であったか)によると、水産では「はい」が73.4%、「いいえ」が26.6%と自らの意思で選んでいることが多いことから、中高一貫教育の更なる充実が求められる。

7. 実習船雲龍丸の利活用については、遠洋3航海を2航海にして、1航海は県および近隣沿海地域の海の世界・資源調査や、県立大学にも利用してもらうとよい。不足する1航海実習は、民間調査船や、国の調査船などに便乗委託するなど考えられる。県の年間経費削減にも効果があるのではないかと。

8. 水産高校では、小さくてもキラリと光る活躍をしていることに地域民は好感を持って評価している。ここに至るまで、県の支援や、大学の指導、さらに水産高校歴代校長を始め教職員の熱心な取り組みによるもので、この成果は、高校生たちに大きな自信と誇りを持たせることが出来た。今回の再編問題では、高校生本人はもとより、保護者にも大きな心配をかけている。

地域とともに生きてきた、113年の歴史の重みは、誰も覆すことは出来ないが、それを超える施策の上に新しい歴史を創り上げようとしている教育委員会の責務は重い。

9. 日本海側に面した福井県は、すでに中国、韓国、ロシアなどと共に環日本海環境・資源を共有している。水産高校は、小浜キャンパスとともに国際交流を更に深め、地域貢献と、若者の国際化に積極的に貢献できる制度も組み入れてほしい。

	<p>10. その他、今後の細部立案の前に、各高校の所在する自治体、経済産業界等との重なる意見聴取をしてほしい。</p> <p>また、知事および教育長ご自身も、小浜水産高校の活発な諸活動に対し極めて高い評価を頂いていることに改めて感謝します。</p>
--	---

No.63	<p>小浜水産高校を卒業した一人です 統合反対です</p> <p>これから、自給自足、地産地消と推奨してる矢先になんで、そうなるのかと 高校から細やかな専門の知識は必要だと思います。</p> <p>そして、水産高校卒業生は社会に出てもすぐに役に立つと言われて来ました。これもひとえに地方から来ておくれる、学識高い教員方々のお陰だと当時から今も思っております。こんなに専門の先生方が、水産高校に揃ってたのに今思うともっと、色々聞いておくべきだったと思ってます。</p> <p>また、先生と生徒の繋がりも長く、卒業20年は経っているのに今でも、いろいろ海や仕事などの繋がりでお世話になっております。これも浜水特有の少人数の細やかな人間関係の良さだと思います。</p> <p>水産だけではなく農林水産業</p> <p>すべて高校から専門知識から習えて、農林もどこでもそうだと思いますが学生当時は、実習とかがただただ楽しくて終わってしまいました。今となると他の高校では習ってない事が沢山あり役に立つ事も沢山あります。</p> <p>調理関係にも慣れるので飲食関係に進みやすく調理師免許も取りやすい環境が作れると思います。事実社会人になってから取りましたし。全てにおいて海の恵みを頂く事から、環境を守る事、生き物を育てる事、海上のスポーツまで海から学ぶ事は膨大だと思います。すごくいい環境にあるので恵まれてて、これらの人材を無くすのは若狭湾のいや福井県の財産を減らす事だと思います。</p> <p>統合されて、ボートなど 国体や、日本代表になれるのでしょうか</p> <p>浜水の環境やから、出来たのではないかと思います 長くなってすいません&lt;(_)&gt;</p>
-------	---

No.64	<p>私は小浜水産高校の卒業生です。</p> <p>このたび県立高校再編整備計画案がでておりますが生徒の人口も減少傾向にある中で厳しい選択ではあると考えますが歴史ある小浜水産高校は福井県の中でも随一食品に取り組みいろんな面で商品の開発やアマモプロジェクト、宇宙食プロジェクト等に取り組み又、平成20年度より「地域産業の担い手育成プロジェクト」に取り組んでおります学校です。近くには福井県立大学小浜キャンパスがありこの大学は水産高校と同じ水産関係ですので小浜キャンパスの附属高校として残す事を考えていただきたいと強く要望いたします次第です。</p> <p>どうかお聞き下さいます様、重ねてお願い申し上げます。 以上</p>
-------	--

No.65

県立高校再編計画案を拝見させていただきましたが、“なぜ、水産科には拠点校を設けないのか？”という一番大きな疑問を感じました

「水産系専門高校については、志願者の減少に伴い、単独の専門高校としては成り立ちにくくなっているため、近隣の職業系専門学科を持つ高校との統合による総合産業高校への再編を検討する。」とされてますが、近年の小浜水産高校の成果・活躍は目覚ましいものがあります。アマモ定植による環境保全活動、漁業被害をもたらすエチゼンクラゲを利用したクッキーの開発、福井県伝統食品であるへしこを用いた宇宙食の開発など、これまでにない魅力ある水産業の姿を構築しつつあります。確かに志願者数の減少はありますが、これらの活動を続けていくことが水産を目指す子供達を増やしていくことにつながると思います。

(4)各職業系専門学科の在り方の農業科においては、「拠点校においては、地元大学等との連携を図り、バイオテクノロジー・環境制御などの高度な技術に触れる機会を多く設けるとともに、生産・流通など農業経営について総合的に学習できる体制を整備する。」とされています。小浜市には、福井県立大学および県立大学臨海研究センターをはじめ、国の研究総合センター小浜事業所や福井県栽培漁業センターが隣接し、他県には存在しない水産研究機関が揃っています。これらの研究機関と連携を図る立地条件も十分に整っていると思われま

す。「本県の水産業を担う人材の育成のため、新しい栽培漁業や食品加工、海洋保全に関する学習のほか、食育など本県の特徴を生かした教育体制を整備する。」とされてますが、総合産業高校の一学科程度の規模では、海洋という自然環境を教育の現場としている水産教育には十分に対応できないと考えます。教育庁教育政策課のパブリックコメント募集の前文には、「生徒数の減少が進む中、本県においても、高校で学ぶ生徒たちにとって最良の教育環境を提供するため、高校の再編整備をはじめとした高校教育改革を積極的に進めていかなければなりません。」と記載されていることから、最良の水産教育を提供するためには、水産科には拠点校が必要だと考えます。日本の食料自給率が低下する中で、今後、わが国の食料供給源となる農林水産業がさらに重要になってくるため、それを行う人を育てる教育を継続していくことが不可欠であります。漁業資源が豊富な若狭湾を有する福井県であればこそ、他学科と同様に水産業を担う人材を養成する高等教育機関が必要であるため、小浜水産高校を水産科の拠点校として配置することを要望します。

No.66	<p>2つのことを意見します。</p> <p>まず、水産科の在り方(案 P4)についてです。船舶免許の取得・船員養成に関して考慮していただきたいです。実習船を用いる教育には船舶の維持費等多額の費用が掛かりますが船員養成機能や陸上では得ることのできない経験等多くの教育効果があります。</p> <p>福井や敦賀には大きな物流港や備蓄基地が有りひとつの産業となっています。また県民の生活は内航船による海上物流無しには成り立ちません。現在、次世代の船員不足が問題となっており内航海運業界から水産高校に船員養成の期待が高まっています。船員は福井県内だけではなく全国規模で活躍します。労働形態は3ヶ月勤務の1ヶ月休暇が多いので住所を福井県に置いたまま働くこととなります。よって県内に拠点を置きながら全国規模で活躍できる福井人の育成が可能です。</p> <p>地域の漁業では小型船舶操縦士免許が必要です。この免許を取得しなければ船舶を運転することができないので、漁船漁業だけでなく養殖漁業の経営も不可能です。また県内の宿泊施設の7割を占める民宿は養殖や定置網や遊漁船などとの兼業し魅力を高めているものが多く小型船舶操縦士の免許が非常に役立ちます。</p> <p>船員養成は私企業が行うことは困難であり本県で船員を養成することができるのは小浜水産高校だけです。福井の命と豊かさをまさに足元で支えている次世代の船員を教育・養成する役割を考慮していただきたいです。</p> <p>もうひとつは、拠点校の扱いについてです。案では農業・工業・商業の各分野のみ拠点校となる専門校を配置(案 P2)することになっています。小浜水産高校はアマモマーメイドプロジェクト等地域(商店街・NPO 等)との交流、小中学校への出前授業、宇宙食やえくらちゃんクッキーなど県立大学や食品加工会社との食品開発・販売等すでに拠点校としての働きが可能な下積みを持っています。よって拠点校のひとつとして水産も強く考慮していただきたいです。</p>
No.67	<p>先日福井県の高校再編についての記事と意見を求める新聞記事を見てメールいたします。</p> <p>その中で、小浜水産高校の単独の存立について困難との見解がありました。勿論小浜在住の人間にとって伝統ある水産高校が単独で存続できないということは残念でなりません。しかしそのような地元民の心情、愛着だけで残念というだけでないことを理解して欲しいのです。</p> <p>それは、海に囲まれその恩恵を古くより蒙ってきた日本にとって、そして今叫ばれている地球環境の破壊、汚染、といった問題に、水産業が関わる度合いは非常に大きなものがあると思うからです。そして、わが小浜水産高校の近年の活動は新聞紙上で知る限り、そのような問題にも真正面から取り組んでいるように思うからです。(アマモの定植活動、越前くらの「利用法の研究、ナサの宇宙食の開発等々)</p> <p>そのような水産業を教える高校が存続できないというのは、日本にとっても大きな損失です。なんでも削減、効率化という最近の世の中ですが、残さなければならぬものは残すことも大事です。今回の高校の再編に際し、是非水産業のもつ意味を再認識し、小浜にそれを教える拠点が無くならない様願うものです。</p>

No.68	<p>県立高等学校再編整備計画を読ませていただきました。</p> <p>今後の生徒数減少などで学校再編を行うのは、学校運営上必要なことだと思います。</p> <p>今後再編が行われ心配に思うことがあります。</p> <p>普通高校は進学に力を入れることは大変重要だと思います。しかしながら進学する生徒のほとんどは県外に出て行ってしまい戻ってくることがないということが少なくないと思います。そのようなことから県内にどのようにしたら戻って来るようになるかを考えたときに、地元に残って就職する友人などがいれば帰って来やすくなるのではないかと思います。だから学校全てが普通科で県外志向という雰囲気ではますます良い人材は県外に流れて行くと思います。</p> <p>職業系高校は拠点校として農業、工業、商業はあるのに水産はどうしてないのでしょうか。水産高校は県内に1校だけですが拠点校としての機能は十分あると思います。また総合産業高校としていくつかの分野を統合すると、それぞれの分野の特色を生かせるかどうかというところがあります。職業系の高校は授業とともに実習などでそれぞれユニークな取り組みを行っています。実習など座学などとは違って、設備等の面で経済的にも人材的にも多くを必要とします。そのような分野で規模を縮小した場合これまでどおり特色ある取り組みができるのかと思います。</p> <p>また職業系高校は地域に根ざした人材の育成の場だと思います。農業・水産については日本の自給率の低さなどの問題からやっと一次産業が見直されてきたところですが、その担い手を育成する高校は是非とも規模縮小ではなくて残し続けてほしいと思います。</p> <p>私自身大学時代に福井県に来て、福井県民の人の良さに惹かれて福井に住みたいと考えて残りました。この素晴らしい福井と人がこのあと何十年・何百年も残るようにするにはこの高校再編は大変重要だと思います。</p> <p>無礼なところもあると思いますが、ご検討宜しくお願いします。</p>
-------	---

No.69	<p>若狭高校在学時から、「高校教育の有難さは在学時には分からない」という意見を持っていました。(この場合、若狭高校で続けられていたホーム制度を指します。卒業者からは廃止への不評ばかり出ています)その考えは、他の高校に仕事で入るようになってからも変わりません。</p> <p>水産高校に関わる前のイメージは、「悪さばかりするやんちゃな集団」というイメージがありました。今でもそうした側面はありますが、今はほぼ「絶滅」しており、むしろ「悩み多き若者」が集まる場になっていることを実感しています。中学までに、数多く行き詰ってしまった子どもが、水産高校で花開く例をいくつも知っています。座学での講義ばかりの学校なら、決して卒業できなかったらと思う生徒(悪い意味ではなく、実習が身に合っている人間はかなりの割合でいます)もたくさんいたように思います。社会に「合わない」と感じてしまう「少年」が、「荒れる」ことなく高等教育に踏みとどまったのです。卒業後、よく道で挨拶されます。水産高校生徒が町を支えていることを実感します。進学者はほとんど町で目立ちません。</p> <p>普通科の比率を上げていく再編は、時代に合っていないと思います。確かに予算的には減少させることは可能ですから、魅力的でしょうけれども、多様化と言いながら、授業や学科の種類をセンター試験対策に寄せていくのは危険を感じます。自分が高校時代に考えていたことは、「目の前の授業を問題で解く次のステップ」としての大学進学でしかなく、もっと県が考え</p>
-------	--

	<p>ているだろう、人口増や産業増は、みじんも頭にありませんでした。</p> <p>地元の祭に貢献したいからわたしは地元に戻ってきました。大多数の大学進学は地域社会に貢献していません。Uターン政策を考えるより、早く就職(正社員に)させるか、起業させるかした方が実質的に県に合った人材が根付きます。</p> <p>若狭東高校がどうなってしまったか、詳しく述べるほど知りませんが、(これは実際関わっている人のご意見に任せます)実業科再編の結果、若狭高校と大して変わらない、入試の順番が違っただけの存在になってしまったように感じます。失った農場や家畜は戻りません。</p> <p>大人は、種を蒔くぐらいしかできません。種をまく畑にアスファルトを敷くようなことを、公教育で行ってはいけないと思います。</p>
--	--

No.70	<p>今回の再編案におきまして、特に、職業高校の再編において、ぜひ、考慮していただきたい点が2点ございます。</p> <p>1つ目は、職業高校の拠点校には福井県立大学のエクステンションとしての機能を持たせていただきたいという点です。エクステンションとは教育や研究の成果を地域や民間企業に対して一般化し、広く、教育していく組織であります。もちろん、そこからは、一方的な提案ではなく、民間企業との共同による研究や新商品の開発など様々な企業や地域の問題を解決していくことも含めます。より専門的な知識を持つ大学が、より地域と密接している高校と結びつくことにより、農業、水産をはじめ工業や商業に関する基礎的な知識から応用までを地域に対して発信する、また、提案をすることができます。特に、福井県立大学小浜キャンパスではこのエクステンションがありません。高校との共同でエクステンションを置くことで大学としても最小限の負担で多くの成果が得られます。高校においては、大学の高度な専門知識や技術を学べるだけでなく、地域の方々を始め、関連企業とのやりとりの中で職業観や勤労意識を向上させることができます。つまり、高校の教員だけでなく、大学や地域および企業からも教育を受けることができると考えます。</p> <p>2つ目は、拠点校としての機能を水産教育にも持たせていただきたいということ。小浜水産高校は、すでに、福井県下では初となる民間企業と共同研究した越前クラゲのクッキーや宇宙食の開発、さらに地域の民間企業に先駆けて最新の衛生基準であるHACCPの取得をしています。さらに福井県立大学と共同でのマサバの完全養殖、へしこの新商品開発、地域、大学、高校が一体となったアマモの研究なども本年度から実施しており、エクステンションとして</p>
-------	---

の役割もすでに実践しています。そして、何よりも、再編案の中で提唱されている拠点校としての機能に近い取り組みをすでに行っております。その実績は福井県ならではの水産の特色を出しており、今までに数多くメディアにも取り上げられ、研究活動においてもH19年度には、アマモ(海草)の研究で日本水産学会最優秀賞、水産庁長官奨励賞、文部科学大臣奨励賞を受賞しています。このように水産高校が特色ある活動を実践し、地域に貢献できていたのは、水産教育の拠点として今まで対応していただいたことが大きな背景となっています。

この先数年後の生徒数の減少は、避けられません。しかし、水産高校がどのような再編をうけるにせよ、今後の水産業の発展、地域の発展のために福井県の水産教育の拠点校としての機能を持たせていただきたいと願います。よろしくお願いいたします。

No.71 質問1

現在、日本海側の海洋水産系高校の拠点校とも言える小浜水産高校を職業系高校の「拠点校」として残さないのはなぜか。

質問2

昨年11月に県の環境基本計画が出され「環境について考え行動する人づくり」が大きな柱になっている。今回の総合産業校化＝職業系高校の規模縮小は、この計画と逆行する内容であり、県全体にとっても大きな損失を招くと思われるがどうか。

少子化の時代だからこそ、地元に残り地元を活性化する人材の養成が高校教育に求められていると思います。福井県は教育力が高く、日本中で、世界で活躍する素晴らしい人材を多く輩出しています。それは誇らしいことです。が、他方、常に人口の都市流出、過疎化、優秀な人材の流出、という悩みを抱えています。これは学校教育のあり方と無縁ではないと思います。

これからの時代はこれまで以上に食料の確保と環境保全が大切な時代です。頭でわかっているだけでなく、実際にできる技術と能力を持った人材の確保が必要です。農林水産業に従事する人、そして地元の山里海の環境を守る人材が必要です。

第一次産業従事者の高齢化、後継者不足が叫ばれる中、教育においてもその分野を縮小して拍車をかけるようなことは、未来を見据える正しい判断とは思えません。都市部へ優秀な人材を送り込む、あるいは地方を都市化することによって発展と見る、という高度成長的な時代は終わり、地方は地方として、その役割を認識し、その町に応じた発展を考えるべき時代となりました。福井は安心して栄養豊かな食料を産出し、自然あふれる環境を残し、都市部では決してマネのできない「日本のふるさと」として発展していくことが望まれます。

西川知事は「他県に先駆けて福井県独自の活動を、行政と県民が一体になって進めていきたい」と力強く語っておられました。

一昨年、中部水産学会が県立大小浜キャンパスで開かれ、特別発表としてアマモマーメイドプロジェクトの取り組みと水産高校生によるカキの養殖に関する取り組みの発表がありました。学科長は感想として「私たち大学人は今まで何をしていたんだろう」と自戒の念を述べておられました。大学教授が唸るような事を現在水産高校では多岐にわたって取り組んでいます。水産海洋教育における明らかな「拠点校」としての役割を担っています。

	<p>福井県内にはたくさんの環境、自然保護の団体が活動しています。しかし、海の環境保全に関してやっている団体は小浜湾におけるアマモマーメイドプロジェクト以外にありません。海での活動は危険も伴うので高い専門性が必要だということの表れではないかと思っています。水産高校がなくなれば、この活動も続けることはできません。福井県から海の環境を守る人たちがいなくなってしまうということです。教育とは未来を創るものだと思います。福井の未来をどう創るのか、という観点から再考をお願いしたいと思います。</p>
No.72	<p>小浜水産高校は、JAXA との関係や種々の食品開発、さらにはアマモの定植活動(アマモマーメイドプロジェクト)等の様々な成果を上げており、これらは他の高校では見られないものです。</p> <p>水産高校を失うことは、小浜だけではなく、福井県の財産を失うことに繋がります。教育の場に統廃合といった大人の事情を持ち込むことは、若者の可能性をつぶすことになります。検討のほど、よろしくお願い申し上げます。</p>
No.73	<p>ご存知の通り、小浜市では平成12年より食のまちづくりを開始、翌年には全国ではじめての「食のまちづくり条例」を制定し、農林水産業や観光の振興、環境保全、健康増進や福祉の充実、食育の推進等、幅広い分野についての振興を図っております。そして、この食のまちづくりは行政だけではなく産学公民が連携し合いながら推進しており、この8年半余りの間で様々な成果が出てきています。</p> <p>その中で福井県立小浜水産高校は、アマモマーメイドプロジェクトをはじめ、エチゼンクラゲを原料としたクッキーの商品化、小浜の海産物を使った宇宙食の開発など数々の画期的な取組みを進めておられます。また、生徒の皆さんが、専門知識を生かして取り組むこれらのプロジェクトを、アマモサポーターズ(ボランティアグループ)など地域の方々が支えていく仕組みも定着しています。これらは、生徒の皆さんの成長は勿論ですが、地域にとっても大きな財産であり、小浜市の食のまちづくり推進にも大きく貢献して頂いています。</p> <p>私は、何年もの年月をかけて作り上げて来た小浜水産高校と地域との関わり、そして何より小浜水産高校の教職員や生徒の皆さんの向上心や熱い思いなどが、現在の県立高等学校再編整備計画によって希薄になってしまうのではないかと心配をしています。</p> <p>食料自給率の低下や環境破壊などが問題となっている今、小浜水産高校の取組みや目指しているものは、この地域だけではなく、日本全体にとっても大変重要なものであると思います。</p> <p>それぞれの職業高校の現状や可能性、地域との関わりなどを充分調査した上で、計画を作成して頂きたいと思います。</p>

No.74	<p>小浜水産高校は国内において数少ない水産高校であり、その歴史は輝かしいものであります。確かに近年そうした伝統を失っているかに見えます。しかしこの希少価値のある高校を潰してはもはや再建は不可能でありましょう。経済的理由だけで教育を判断してはならないと思う。水産、海運、海洋資源の重要性に鑑みこの分野の教育の充実こそ地域の発展ひいては国家の発展に繋がるものと考えます。全国から生徒の集まるかつての浜水を願って止まない。</p>
No.75	<p>回りを海に囲まれた日本で、水産業の知識を持つことは大変重要であると考えます。農業、林業と同じで専門家を育成するこの水産教育は、必要不可欠ではないのでしょうか？小浜水産高校を無くさないでください。</p>
No.76	<p>少子化の流れに対応することは止むを得ない所は否めないが、県立大学との連携(附属高化)することで、水産資源研究での国内における重要な人材を輩出できる可能性が見込まれる。また地域経済の礎となる研究開発を長期的視点のもとでの教育体制を確立することは市民県民の利益にかなうものと考えている。善処を望みます。</p>
No.77	<p>農業系、工業系等だけでなく、水産系も拠点校を作るべき。「海」にはそれだけの重要性和将来性があると思います。アマモなど大変がんばっていると思いますが、全国から生徒を集める努力と手助けが必要とも思います。小浜水産高校を残し、発展させてください！！</p> <p>「小浜水産高校を残して下さい」「水産系でも拠点校を」</p> <p>農業系や工業系等は拠点校を設けるとしてありますが、水産系はそんな話は無いようです。今後の「海」「水産」の重要性＝食糧分野や環境分野(世界では藻を使った発電も試行されているようですが)などを考えれば、「水産系」は今後の重要なテーマ・分野となるべきだと思います。その重要性にふさわしい教育内容そして全国からの生徒の募集がまだまだ実現していないかもしれませんが、県のバックアップの下で、十二分に実現可能な課題ではないでしょうか。県立大学の附属高校にという要望も出されていますが、統合という結論ありきではなく、是非前向きに考えて頂きたいと思います。</p> <p>また、地域の中で小浜水産高校が果たしている役割は、特筆すべきものが有ることは周知の事実です。数年前の座布団集会(小浜市羽賀寺で開催)でも、西川知事がはっきりその事をおっしゃっていました。「アマモ」の活動、「越前クラゲを使ったクッキーや羽二重餅」等の販売、「宇宙食」の開発など、地域住民との交流も含め素晴らしいものがあり、今後の発展も予感させるものだと思います。</p> <p>繰り返しになりますが、「水産系の拠点校として」素晴らしい教育内容をより進化させ、生徒募集の上でも教育内容にふさわしく各地から集まるように是非お願いしたいと思います。「小浜水産高校の存続と発展を！」「水産系の拠点校に！」是非よろしくお願いします。</p>

No.78	<p>今回の計画(案)において、水産業のことが全く記載されておらず、先日の新聞においても水産校の単独が困難であると出ていたことにとっても疑念を抱きました。</p> <p>福井県はこれほど美味しい海産物、美しい海が売りであり、又、現在の小浜水産高校は、エチゼンクラゲに対する商品開発や小浜湾浄化のアマモ定植、JAXAとの宇宙食の開発など目覚ましいものが多くあります。それほどの成果があるにもかかわらず、水産系の拠点が提案されていないことから、これまでの歴史と実績、そして、これからの可能性を大切に、水産業の拠点を美しい海が代表される嶺南におくべきであると考えます。再度、今後の福井県の水産業の在り方、現在の水産高校の実績をご検討頂き、水産系の拠点校としての存続、もしくは、総合産業高校となっても拠点となる機能を持たすべきと考えます。</p>
No.79	<p>今現在若狭地方では食文化を売りに地域的活動を行っていますが、中でも食品に関しては地域と協力し町づくりに取り組んでいます。今後食文化を町全体で盛り上げていくためには「海洋・食品工業」が必要不可欠だと思います。</p> <p>本来であれば、単独での水産高校の存続を願っていますが、それが困難であるならば、嶺南での総合産業高校の拠点校もしくはそれと同等の機能を持った状態での存続を希望します。</p>
No.80	<p>今回の計画案が水産系専門高校と職業系学科を持つ高校との統合を検討すると掲げておられますが、私は出来るならば、小浜水産高校が水産系の拠点校としての存続を願い、同地にある県立大、県栽培漁業センター等との連携にて安全な食が問題となっている昨今、自然に恵まれた地元若狭の漁業食品の活性化することを望みたいと思います。</p> <p>近年、小浜水産高校ならではの活躍、頑張り(ハサップ取得による宇宙食への挑戦、エチゼンクラゲの活用、アマモの定植による環境活動等)に、小浜市民として応援をしております。</p> <p>小浜水産高校が単独での存続を願っていますが、統合がやむを得ずとの事となるならば、嶺南での総合産業高校の水産系の拠点校、もしくは今まで同様の機能を持った立場での存続を強く希望致します。どうぞ宜しく御検討下さいます様に。</p>
No.81	<p>今回の高校再編案については、漁業に関わる者として、水産高校が拠点化していないことに疑問を感じる。単独で存在しなくても、拠点校と同じ扱いをすべきと考えます。</p>

No.82	<p>高等教育については、日頃から関心も知識もあるとは、とても言えるような者ではありませんが、小浜水産高等学校の存続が危ういと耳にしましたので、ひとことメールいたします。</p> <p>小浜水産高等学校は歴史ある学校で、小浜市民にとっても誇るべき存在です。近年、アマモマーメイドプロジェクトの活動を通して、市民と共に小浜の海をジュゴンの住めるような美しい海を作ろうと活動してくれています。</p> <p>せつかく、市民の意識が海の再生に向かって中、先頭を切ってリードしてくれている小浜水産高等学校が無くなっては、小浜市にとって大変な痛手です。</p> <p>小浜市民のひとりとして、絶対に納得のいかないところです。</p> <p>志願者数の減少、イコール統合という考え方は、どんなものでしょうか。学校数を減らすことより、第1次産業の魅力と必要性を小中学生にアピールし、志願者の増加を考える方が前向きな考え方だと思います。</p> <p>近未来に食糧難になると言われている日本にとっても、マイナスな考え方だと思います。</p> <p>小浜水産高等学校は、小浜市の宝です！！！！是非、小浜水産高等学校の存続をお願い致します。</p> <p>また、越前クラゲの利用法の開発や、宇宙食の開発などにも活発に活動してくれています。食糧難に立ち向かう中、きっと水産業における食の開発にも新しい提案をしてくれるものと信じます。</p> <p>もう一度いいます。小浜水産高等学校は、小浜市の宝です！！！！是非、小浜水産高等学校の存続をお願い致します。</p>
-------	--

No.83	<p>福井県において、一次産業はとても大切な産業だと認識しています。農業はもちろんですが、水産業についても 福井を特徴づける大切な産業です。</p> <p>問題もたくさんありますが、それらを目先の解決ではなく、根本的に解決し、個性に結びつけるもの、それは教育しかないと思います。</p> <p>そのためにも、農業、工業、商業だけでなく 水産業の分野においても、拠点校を配置してほしいです。水産業の存続が、福井の土地と人を守ることにつながるということ、そのためにはどうすればいいのかということをごひ、情報発信してほしいと思います。</p> <p>現に、小浜水産高校には そのためにがんばっている先生方や生徒さんがいます。また、点数や偏差値だけでなく未来をみすえて真の優秀な人材を育成する真の教育こそが県を豊かにするのではないかと思います。そのためにも、高校生の子たちが自由に夢に向かって進学や就職を出来るような体制づくりを考えてあげてほしいです。大人の都合で、未来ある高校生の子たちがふりまわされるのは可哀そうです。</p> <p>他県ではそうかもしれませんが。でも福井は違ってもいいのではないのでしょうか。合理的でなくとも、福井の土地にあった 福井らしい 教育の仕方があってもいいと思います。何を大切にするか、答えはきっと近い将来に出ると思います。</p> <p>福井の高校生の子たちがたくさんいい勉強ができるよう、よろしく願います。</p>
-------	---

No.84	<p>水産高校の卒業生です。水産、海の資源活用など、これからも最も大事になると思います。今はすっかり有名になった鯖缶にえくらちゃんクッキーに潮羽二重餅、ボートのアジア大会出場、市民を巻き込んだアマモ定植による海の水産向上計画、ダイビング部の活躍は言うまでもありません。</p> <p>まだまだ水産高校は発展途中です。どうか、まだまだ引き続き水産高校の生徒に海関係の研究と努力をさせてあげて下さい。専門高校は、勉強する場でもありますが、郊外実習など社会人とも接する場の経験は、性格もしっかり形成されたのではないかと思います。</p>
-------	---

No.85

過日発表された「県立高等学校再編整備計画(案)」について、嶺北再編には大賛成です。しかし、水産高校をターゲットにした再編には本計画から外して下さい。それは、栽培センターや県立大学をはじめ、近隣には京都大学やエネルギー研究所、関西電力など水産業を取り巻く施設が存在しています。それらの施設の機能を十分に生かし発展させていくために一番の底辺を支えているのは、もちろん小浜水産高校です。

また、県立高校のなかで、これほど地域に生かされ共に育っている学校は例がない。地域から自発的にサポーターが生まれ商店街もバックアップする。市民はいちばん身近に感じる学校として認識していることなど。(アマモマーメイドプロジェクトやエチゼンクラゲの商品化、宇宙食への取り組みなど)

小浜水産高校存続が必要な理由

- ①地域が必要としている。(学校は勉強だけをやる場所ではない。社会へ出る為の道場である。その道場に市民が自発的に関わり共存共栄の精神をもち、生かし生かされた学校づくりをしている。他県立高校は閉鎖的で非日常的な空間を持つため地域住民は近寄らない)
- ②水産高校の少ない生徒数の中で、部活動に常に上位入賞できる実力は他校を圧倒する実力を持っている。
- ③実習船「雲龍丸」は福井県の財産である。経費面ばかりを問われているが、長期遠洋航海で学んだ船上教育は、やんちゃ学生を、立派に鍛え社会人としての心構え、即戦力を作り出す最高の教材である。
- ④実習船「雲龍丸」は県民の財産でもある。水産教育の最高の教材ならば、県立大学も利用するとか県民の船として開放していけばよい。
- ⑤小浜水産高校ほど特色ある教育をしてくれる学校は例がない。(現場実習、カッター訓練、海を体験した学習、地域とのつながり等)
- ⑥食料自給率が40%を切る時代に、改めて一次産業を見直す必要がある。そのためにも専門性を追求し、一貫した水産教育を教え伝えていく必要がある。
- ⑦中学校では芽を出せなかった子供も、水産の専門性を学び、学力で他人を蹴落とすことをせず、みんなで協力し芽を出す生徒がほとんど。これこそ教育の原点ではないでしょうか？
- ⑧水産高校廃止に追い込めば、福井県から水産産業をなくすことと同じ。エリート集団ばかりが育っていいのか？足元をしっかりと見つめなおし今の世の中に必要な水産を見つめなおし生かしていくことではないのでしょうか？
- ⑨日本最古の水産高校ということは、福井県として誇りを持っているはずでは？伝統を捨てていいのか？

地元が必要としている高校だからこそ、小浜水産高校をどうか存続してください。

見方を変えれば、福井県が日本をリードする水産国(食育を通しサバなどのブランド化を高校→大学→民間企業で取り組み全国に発信できる機能を十分持っている。また水産研究のモデル県としての機能を十分に生かす。雲龍丸を広く県民に開放し海を体感してもらう。また環境面からも大いに利用し新たな使い方を探る)になれるはず。「捨てる」ことを考えるより、横の連携をつくることで「活かす」ことを考えて下さい。それが、公務の原点ではないでしょうか？

No.86	<p>以前から統廃合が進んでいましたが、今回「水産高校」もその対象となると聞きました。水産系の専門高校は、全国でも珍しいと聞いていたので、とても残念に思います。</p> <p>少子化、生徒数の減少ということもあると思いますが、近くには県立大学もありますので、その付属になるならまだしも、一般高校の一科に入るのはどうかと思われます。</p> <p>今、日本の食糧自給率を考えたとき、農業と同じくらい漁業も大切だと思います。(食育を目指す県であれば、尚更だと思いますが。)昔と違い、「育てる漁業」に変わり、より専門性を必要とする時なので、施設等も必要なのであれば、今現存する施設を活用していった方が有効なのでは…。</p> <p>安易に切り捨てるのではなく、将来を見据えて計画を立てて頂き、水産高校を専門校として残して頂くことを望みます。</p>
No.87	<p>水産業及び水産教育は、正直、お金はかかるが、実利が少ない、又は従事者、学生も減る、とは思う。だが、だからこそ、国として、県として支え、支援をすべき産業、教育だと思う。</p> <p>普通校、進学校ばかり増えるが、そこを卒業した人が、一次産業につくとは思えない。県や国を支えるのは一次産業の人でもあり、特にお金のかかるであろう水産業にこそ、将来を見え、力をそそぐべきではないか？</p>
No.88	<p>小浜水産高校について</p> <p>職業系の高校、特に水産関係については、これからの食に対する認識を高め、又日本古来の魚に対する思いを追求する為にはぜひ必要と思われる。</p>
No.89	<p>水産業を、観光資源のひとつと考えている現状で、今後の発展を考えるなら、小浜水産高校は、水産業界にとっても、大事な教育機関である。</p> <p>よって、専門高校として残すべきである。</p>
No.90	<p>県立高校の再編は、少子化や大学進学率の高まり、社会構造、環境の変化により仕方がないと思います。しかし、教育環境に於いて、嶺南に居住するものにとって、嶺北よりハード、ソフト両面嶺南のほうが、劣っていると思っているのは、私だけでしょうか。「生きる力」を育むという中で、その中核を担う高校教育の重要性は、計り知れないものです。</p> <p>私は、水産業に携わる者ですが、この業界の将来を考えますと、次の世代を担う者に対し、非常に危機感を持っています。水産系高校の専門分野の特化により、魅力ある高校の再編成をお願いし、水産業界も魅力あるものにするための種々の努力は致しますが、貴教育庁におかれましても、担い手育成に注力願いたく思います。また、県立大学の海洋生物資源学科との、共同活用もお願いしたい。嶺南の教育低下につながらない再編成を望みます。</p>

No.91	<p>若狭地域における小浜水産高校の役割・活動は、アマモや、エチゼンクラゲの商品化、各小学校に対する支援等多大な貢献をおこなっております。</p> <p>小浜小学校では、児童と保護者で水産高校におきまして、缶詰の製作の体験をさせていただきました。また、アマモの育成にも多くの児童が参加し、小浜の海の生態系の回復に貢献しています。当地域、福井県はいうにおよばず、水産高校の存在意義は日本を代表するものがあります。</p>
No.92	<p>小浜水産高等学校の件について、一言意見させて頂きたいと思います。</p> <p>アマモを通して海をきれいにするなど、地域の活性化に積極的に取り組まれておられたり、文化祭など、地域に密着した活動をされており、日頃から関心を持っております。ぜひ、今後の水産業、水産教育をますます発展したものになります様、願っております。</p>

#### 4 定時制・通信制課程の見直しに関する意見

No.93	<p>「県立高等学校再編整備計画(案)」(以下「計画案」)の「定時制・通信制課程の見直し」に対して、ここに意見を提出します。</p> <p>第一に、「全ての定時制課程において、3年間で卒業が可能となるよう、単位制・2学期制を導入する」という「就学体制の見直し」についてです。</p> <p>「計画案」は、単位制・2学期制を導入する理由として「編入学希望に柔軟に対応する」をあげています。ここには、もともと定時制を希望して入学してくる生徒に対しての教育の保障という視点が抜けて落ちています。定時制教育は、単なる単位修得の場でのよいのでしょうか。また、1学年の学級数が少ないため「多様な選択ができる」という単位制の利点も得にくくなります。様々な課題を抱える生徒が多く通う定時制で単位制を実施した場合、単位修得も自己責任とされることで、かえって脱落者が増えかねません。以上の理由から、定時制高校へ一律に単位制を導入する必要は無いと考えます。</p> <p>二学期制は、前期で卒業する場合、就職・進学への対応が困難です。後期に入学する場合、必要科目の授業が選択できないおそれもあります。また、半期ごとの単位認定により教科によっては前期・後期に授業時数が大きく偏り、それを解消するために授業だけを持つ非常勤講師での対応となることが予想されます。そうなれば、正規教員が減り、結局、授業以外の教育活動に支障をきたします。「計画案」では「学級単位の活動が希薄にならないよう」「生徒が9月に卒業する場合の就職や進学の対応」など単位制・2学期制の課題について示しています。しかし、課題の解消については「検討する」としているだけで、あまりにも無責任と言わざるを得ません。</p> <p>第二に、「定時制・通信制課程の見直しスケジュール」についてです。</p> <p>「計画案」では、2010年度より新しい就学体制を開始するとしていますが、実質数ヶ月程度の検討期間で教育課程を作成することは困難です。さらに2010～12年度は、学年制(3学期制)・単位制(2学期制)が混在することになります。定期考査や長期休業の時期が異なり、部活動や学校行事等の調整が必要となります。こうした細かな対応を含め来年度中に準備することはできません。また、移行期間は教職員の配置の確保が必要となります。</p> <p>第三に、「夜間制から昼間制への移行」についてです。</p> <p>定時制高校には、経済的に苦しく家計を助けるために働きながら学ぶ生徒が多いのが実態です。こうした子どもの教育を受ける場として「夜間部は必要」は現場教職員の一致した意見です。また、全日制と夜間定時制を併設する高校では、昼間部へ移行することによって校舎・体育館・特別教室などの使用に支障がでることが予想されます。定時制で唯一の道守高校の夜間商業科を2010年度に募集停止としていますが、定通教育においても職業教育の保障は必要です。職業科目を単位制で開講しても系統的な学習ができるとは思えません。</p>
-------	---

第四に、「教育内容の充実」と「課題を抱える生徒への対応」についてです。

単位制導入によって、3学年の収容定員で教職員が配置されるため、学年制の配置に比べ、減ることになります。定時制に入学する生徒数は、1998年以降ほぼ一定の水準を保っています。しかし、生徒と向き合う教員数が減ることになれば充実した教育を行うことができるのでしょうか。現状を考えれば、今以上の教職員の確保が必要です。さらに、1学年1学級40人募集で考えると養護教諭の配置基準を下まわります。「計画案」では、教育相談体制の充実として「専門的知見を持つカウンセラーの導入や養護教諭の適正配置」が記述されていますが、果たしてどこまで実行できるのか疑問です。

第五に、「学校配置の見直し」についてです。

高問協答申では「通学可能範囲に1校は配置」としていました。働きながら学ぶ生徒のためにも現在の学校配置を堅持すべきです。

第六に、「通信制課程の教育体制の充実」についてです。

2010年度に道守高校通信制単位制コースの募集停止としていますが、在籍する生徒に対する学習の保障は一定期間必要です。また、通信教育を希望する生徒に対応できる制度となるよう、検討をすすめるべきです。

#### 単位制について

- 学校としてのまとまりが失われ、高校らしい学校行事ができなくなる。
- 集団行動を避ける性向を助長してしまうことが多い。
- 現行の制度(学年制)は、ゆったりとしたカリキュラム・少人数制・教師と生徒の親密な関係によって、課題を多く抱えた生徒も学校生活を送れる。
- 単位制は、好きな科目を選択できる長所もあるが、意志が強くないと4修、5修になっていく。「夢の制度」「すばらしい」とはいいきれない。
- 学年制に特に問題があるわけでもないのに、すべて単位制へ移行するのは乱暴である。
- 授業の選択を保障したくても、教室が足りない。授業待ちの生徒の控え室が確保できない。
- 手厚い支援が必要な生徒が単位制に入学すると、脱落者が増える可能性が大きくなる。
- 教員が十分に確保できなければ、生徒に選択の自由はなく、単位制のメリットはない。多数の講座を準備しないといけない現状を提案者側は知っているのか。
- 学外学修の単位認定は、安易に拡大すべきでない。

#### 2学期制について

- 編入した場合、卒業のために必要な科目をタイミングよく取れるような教育課程ができるのか。
- 半期で単位を修得する2学期制は、複雑なカリキュラムが必要。それに対する準備、システムの構築が2010年4月までに行えるのか。
- 半期毎に卒業が可能であるが、進路指導の面で十分対応できないことがでてくる。

#### 夜間部について

- 昼間働く必要のある生徒は必ずいる。特に交通の便の悪い地域から夜間定時制を無くすべきではない。
- 昼間めいっぱい働かねばならないために夜間部を選ぶ子もいるのだから、安易にその方向にすすまないほうがよい。
- 現行の夜間部では、7割から8割が就労している。経済的に苦しく働きながら学ぶ生徒にとっては夜間部は必要。
- 夜間部を昼間部にすることによって、施設の使用に支障が出る。

#### 計画全体・進め方について

- 2010年度開始の「就学体制の見直し」を2009年度中に検討というのは性急すぎる。実質、半年で検討しなければならない。
- 現時点では運用面での具体的な案が示されていない。提案側と直接話し合う機会が欲しい。
- 養護教諭やカウンセラーが本当に確保されるのか疑問である。
- 働きながら学ぶ生徒を切り捨てる再編計画になっていないか。
- 二段階で移行するとなると、夜間学年制、夜間単位制、昼間単位制が並行開講することになり、混乱は必至。

#### その他

- 昼間二部制は、多くの地元企業から理解と協力を得ている。
- 通信制単位制コースの募集停止の場合、在籍者の学習保障が必要。
- 教育相談体制の充実に向けて動く点はよいが、スローガンだけにしないほしい。
- 福井への通学が困難な嶺南地区でもスクーリング指導が受けられるような制度が望まれる。

最後に、定時制・通信制高校の子どもたちは、働きながら、様々な課題を抱えながらも学び、逞しくなって卒業しています。定時制・通信制高校は、教育の機会を保障する上で必要な学校です。教育行政には、本来の責務である教育条件整備に努めることを求めるものです。

以上

No.94	<p>高校再編整備計画の定時制に関する部分について意見があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現場の意見を十分に聞いてください。(現場に議論の時間をください。)</li> <li>2. 細かなシミュレーションを行った上で変革の実行可能性や是非を見積もってください。</li> <li>3. 見切り発車はせず、十分に時間をかけてください。</li> <li>4. 一律の制度変更はせず、それぞれの学校の実態に合わせて改善ができるように配慮してください。</li> </ol> <p>計画では単位制の2学期制への移行を目指しています。単位を落としても落第しないことは生徒を精神的プレッシャーから解放し、不登校を経験した生徒達にとっては登校しやすい一要因となっている面は確かにあると思います。</p> <p>反面、安易に単位を落とす生徒が多いのも事実です。計画によれば21年度中に制度変更を終えて22年度に新体制スタートとなっていますが、あまりに急であり、拙速に思えます。単位制の導入については、他県での実情などもふまえながらもっと時間をかけて吟味した上で考えなくていいのでしょうか？</p> <p>また、半期ごとの単位認定や10月入学も視野に入れておられるようですが、実現するとなると多くの課題が予想されます。シラバスはどう作ればいいのでしょうか？現状のままだと、後期に教科書の後半から学習し始め翌年の前期に前半を終えるといういびつな形になります。これを防ぐには前半科目と後半科目を各学期に準備することになりますが、受講人数がそろるか、教員は足りるのか、時間割は組めるのか、非常に怪しいです。進路指導に関しても、10月入学生は就職活動や進学準備の途中で卒業を迎えることになりますがどういった対応をすべきとお考えでしょうか？</p> <p>カウンセリング体制の充実等、計画には現場が望んでいる改革も含まれておりその点はあるがたく思っています。ただ、細かなシミュレーションを行っていくと様々な問題が見えてくるように思います。拙速な変革を一律に押しつけることなく、現場と十分に議論を重ねた上で計画を進められることを希望します。</p>
-------	---

No.95	<p>県立高校再編案が発表されたそうですが、内容をお聞きして、まず思ったことは、地域や現在の学校の生徒の実情が反映されていないということです。</p> <p>定時制・通信制が、すべて単位制になるという案には反対です。私の子どもは道守校を卒業しました。クラスには、親や祖父母くらいの生徒さんもいて、みんなをひっぱってくれる存在だったと聞いています。そのおかげで、学ぶ意欲がとだえることなく、時間はかかりましたが、卒業できたと思います。</p> <p>道守には、様々な理由で(不登校や障害など)来ている生徒さんがいます。だからこそクラスという集団の中で育ちあうことが必要で大切なのだと思います。</p> <p>クラスをなくす単位制のみにしないでください。クラスのある学年制を残して下さい。机の上だけで案をつくらず、子どもによりそった計画をおねがいします！</p>
-------	---